

市民協働指針策定のための意識調査

集計報告書

(速報版)

- 1 市民意識調査
- 2 地域活動団体意識調査
- 3 職員意識調査

平成 27 年 7 月

匝 瑳 市

目 次

I	調査の概要	1
I-1	調査の実施概要	1
II	調査結果（市民）	2
II-1	回答者について	2
II-2	地域活動への参加状況について	5
II-3	協働に対する考え方について	12
III	調査結果（地域活動団体）	16
III-1	回答者について	16
III-2	活動における課題について	17
III-3	市との協働について	18
II-4	他の団体との協働について	29
IV	調査結果（職員）	33
IV-1	回答者について	33
IV-2	市民や地域活動団体等との協働について	35
IV-3	市の協働に対する考え方について	49

I 調査の概要

I-1. 調査の実施概要

.....

1. 調査の概要

- 調査期間：平成 27 年 6 月 2 日 ～ 平成 27 年 6 月 16 日（市民）
平成 27 年 5 月 18 日 ～ 平成 27 年 6 月 11 日（団体）
平成 27 年 5 月 13 日 ～ 平成 27 年 6 月 2 日（職員）

- 調査方法：郵送配付・回収

- 配布・回収：

種別	配布数	回収数	回収率
市民(16歳以上)	2,000 票	701 票	35.1%
地域活動団体	62 票	52 票	83.8%
職員	263 票	203 票	77.1%

2. 報告書のみかた

この調査の分析結果を読む際の留意点は以下のとおりです。

- 「調査結果」の図表は、原則として回答者の構成比（百分率）で表現しています。
- 「n」は、「Number of case」の略で、構成比算出の母数を示しています。
- 百分比による集計では、回答者数（該当質問においては該当者数）を 100% として算出し、本文および図表の数字に関しては、すべて小数点第 2 位以下を四捨五入し、小数点第 1 位までを表記します。また、複数回答の設問では、すべての比率の合計が 100% を超えることがあります。
- 設問のなかには前問に答えた人のみが答える「限定設問」があり、表中の「回答者数」が全体より少なくなる場合があります。
- 図表中の「0.0」は四捨五入の結果または回答者が皆無であることをあらわします。
- 母数が 100 未満の場合の百分率は、統計的誤差が大きい可能性が高いので数値の取扱いには特に注意が必要となります。
- 選択肢の語句が長い場合、本文中及び図表中では省略した表現を用いる場合があります。

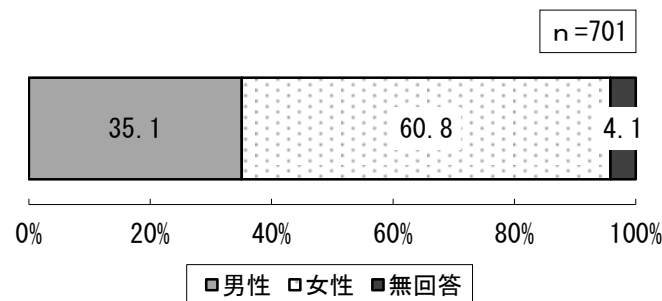
Ⅱ 調査結果（市民）

Ⅱ－１．回答者について

問1 あなた自身について、それぞれの項目ごとにあてはまる番号を選んでください。
（それぞれ１つに○）

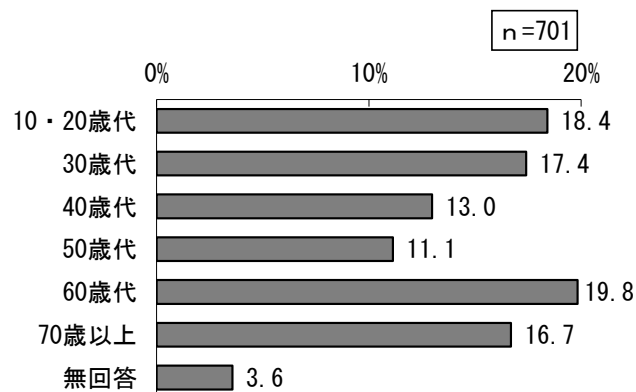
（１）性別

○ 性別は、「女性」60.8%、「男性」35.1%。



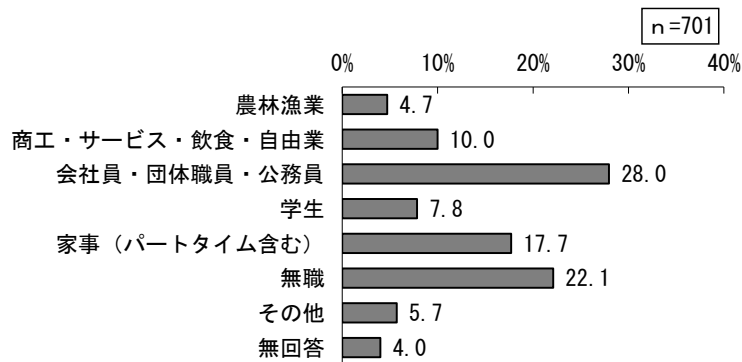
（２）年齢

○ 年齢は、「60歳代」19.8%が最も多く、次いで「10・20歳代」18.4%、「30歳代」17.4%と続く。



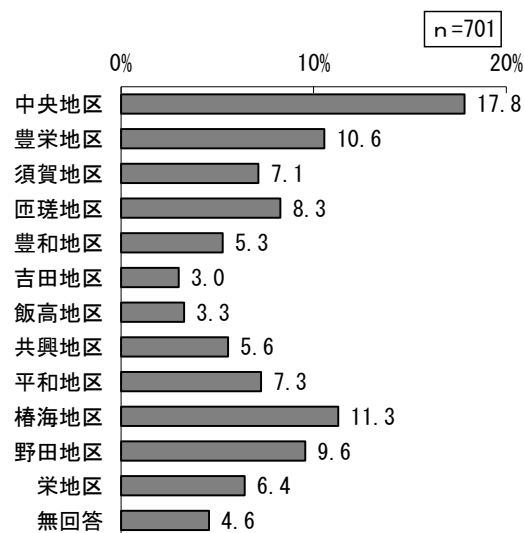
（３）職業

- 職業は、「会社員・団体職員・公務員」28.0%が最も多く、次いで「無職」22.1%、「家事（パートタイム含む）」17.7%と続く。



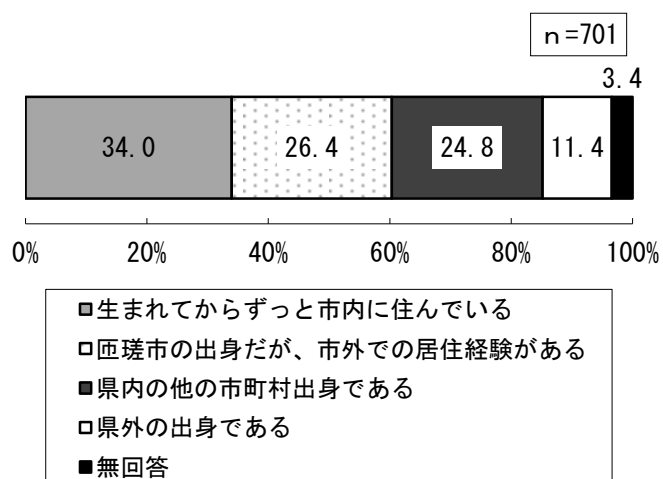
（４）居住地区

- 居住地区は、「中央地区」17.8%が最も多く、次いで「樺海地区」11.3%、「豊栄地区」10.6%と続く。



(5) 現在の地域に住んでいる状況

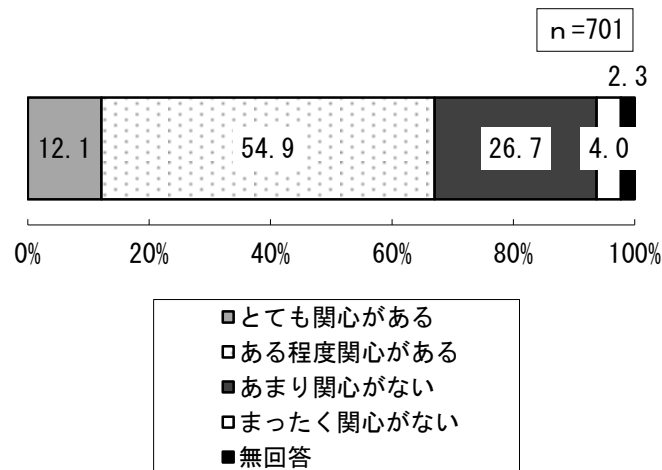
- 現在の地域に住んでいる状況は、「生まれてからずっと市内に住んでいる」34.0%が最も多く、次いで「匝瑳市の出身だが、市外での居住経験がある」26.4%、「県内の他の市町村出身である」24.8%と続く。



Ⅱ-2. 地域活動への参加状況について

問2 あなたは、まちづくりや地域づくりに関心がありますか。（1つに○）

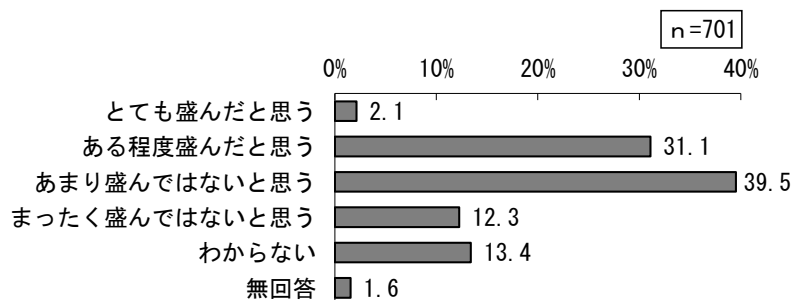
- まちづくりや地域づくりへの関心は、「ある程度関心がある」54.9%が最も多く、次いで「あまり関心がない」26.7%、「とても関心がある」12.1%と続く。



	合計	とても関心 がある	ある程度関 心がある	あまり関心 がない	まったく関 心がない	無回答
全体	701 100.0	85 12.1	385 54.9	187 26.7	28 4.0	16 2.3
男性	246 100.0	35 14.2	121 49.2	69 28.0	18 7.3	3 1.2
女性	426 100.0	46 10.8	247 58.0	111 26.1	9 2.1	13 3.1
10・20歳代	129 100.0	10 7.8	64 49.6	44 34.1	10 7.8	1 0.8
30歳代	122 100.0	11 9.0	60 49.2	41 33.6	7 5.7	3 2.5
40歳代	91 100.0	11 12.1	55 60.4	22 24.2	2 2.2	1 1.1
50歳代	78 100.0	6 7.7	41 52.6	25 32.1	2 2.6	4 5.1
60歳代	139 100.0	19 13.7	82 59.0	31 22.3	3 2.2	4 2.9
70歳以上	117 100.0	25 21.4	69 59.0	17 14.5	3 2.6	3 2.6

問3 あなたが住んでいる地域は、地域活動が盛んな地域だと思いますか。（1つに○）

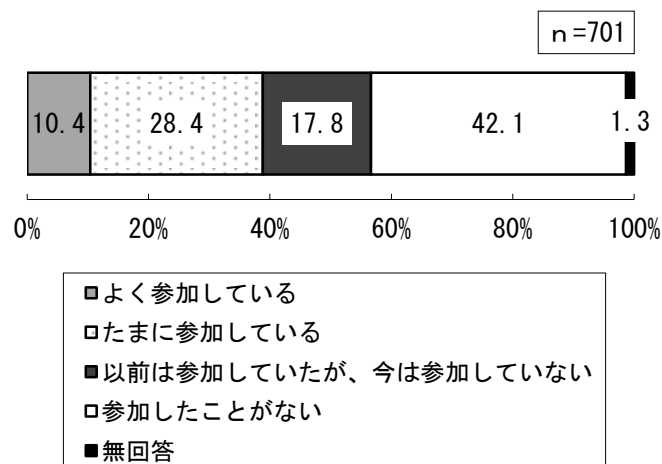
- 居住地域において地域活動が盛んかどうかは、「あまり盛んではないと思う」39.5%が最も多く、次いで「ある程度盛んだと思う」31.1%、「わからない」13.4%と続く。



	合計	とても盛んだと思う	ある程度盛んだと思う	あまり盛んではないと思う	まったく盛んではないと思う	わからない	無回答
全体	701 100.0	15 2.1	218 31.1	277 39.5	86 12.3	94 13.4	11 1.6
中央地区	125 100.0	5 4.0	43 34.4	48 38.4	13 10.4	13 10.4	3 2.4
豊栄地区	74 100.0	2 2.7	18 24.3	33 44.6	12 16.2	9 12.2	0 0.0
須賀地区	50 100.0	1 2.0	14 28.0	14 28.0	9 18.0	10 20.0	2 4.0
匠瑳地区	58 100.0	1 1.7	19 32.8	22 37.9	6 10.3	10 17.2	0 0.0
豊和地区	37 100.0	1 2.7	16 43.2	10 27.0	2 5.4	6 16.2	2 5.4
吉田地区	21 100.0	1 4.8	9 42.9	7 33.3	1 4.8	2 9.5	1 4.8
飯高地区	23 100.0	0 0.0	10 43.5	10 43.5	2 8.7	1 4.3	0 0.0
共興地区	39 100.0	1 2.6	14 35.9	16 41.0	4 10.3	4 10.3	0 0.0
平和地区	51 100.0	0 0.0	8 15.7	22 43.1	9 17.6	10 19.6	2 3.9
椿海地区	79 100.0	1 1.3	17 21.5	34 43.0	11 13.9	15 19.0	1 1.3
野田地区	67 100.0	0 0.0	20 29.9	30 44.8	11 16.4	6 9.0	0 0.0
栄地区	45 100.0	1 2.2	15 33.3	20 44.4	4 8.9	5 11.1	0 0.0

問4 あなたは、地域の活動に参加していますか。（1つに○）

- 地域活動への参加は、「参加したことがない」42.1%が最も多く、次いで「たまに参加している」28.4%、「以前は参加していたが、今は参加していない」17.8%と続く。

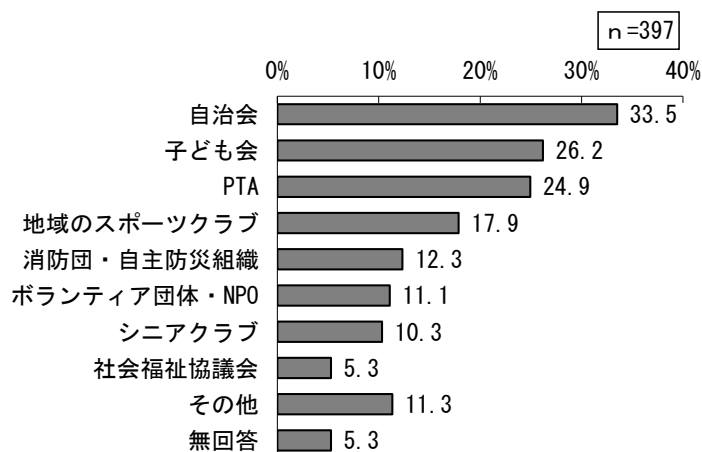


	合計	よく参加している	たまに参加している	以前は参加していたが、今は参加していない	参加したことがない	無回答
全体	701 100.0	73 10.4	199 28.4	125 17.8	295 42.1	9 1.3
男性	246 100.0	33 13.4	61 24.8	41 16.7	109 44.3	2 0.8
女性	426 100.0	36 8.5	128 30.0	81 19.0	174 40.8	7 1.6
10・20歳代	129 100.0	4 3.1	26 20.2	28 21.7	71 55.0	0 0.0
30歳代	122 100.0	18 14.8	30 24.6	12 9.8	61 50.0	1 0.8
40歳代	91 100.0	8 8.8	33 36.3	8 8.8	41 45.1	1 1.1
50歳代	78 100.0	8 10.3	27 34.6	18 23.1	24 30.8	1 1.3
60歳代	139 100.0	13 9.4	45 32.4	34 24.5	45 32.4	2 1.4
70歳以上	117 100.0	19 16.2	29 24.8	22 18.8	43 36.8	4 3.4

問 4-1 から問 4-3 は、問 4 で「(1~3) 参加している (していた)」と回答した方におうかがいします。

問 4-1 どのような団体等の活動ですか。(あてはまるものすべてに○)

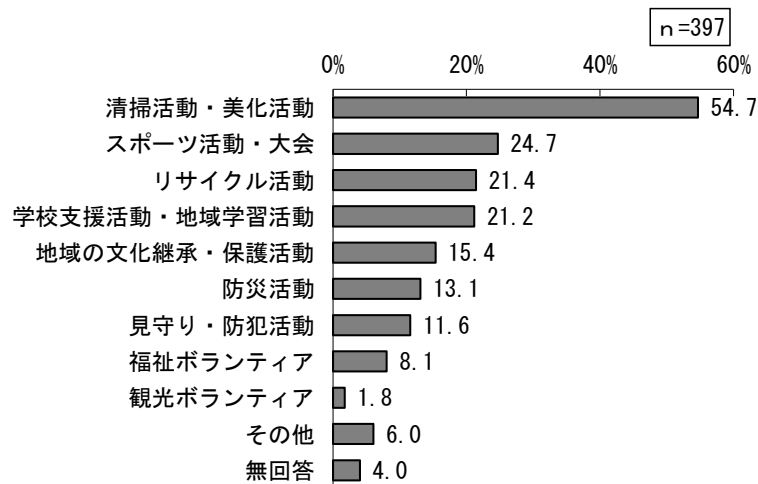
- 参加している (していた) 団体等は、「自治会」33.5%が最も多く、次いで「子ども会」26.2%、「PTA」24.9%と続く。



	合計	自治会	シニア クラブ	子ども 会	社会福 祉協議 会	PTA	地域の スポー ツクラ ブ	ボラン ティア 団体・ NPO	消防 団・自 主防災 組織	その他	無回答
全体	397 100.0	133 33.5	41 10.3	104 26.2	21 5.3	99 24.9	71 17.9	44 11.1	49 12.3	45 11.3	21 5.3
男性	135 100.0	51 37.8	6 4.4	21 15.6	5 3.7	14 10.4	29 21.5	13 9.6	46 34.1	15 11.1	2 1.5
女性	245 100.0	76 31.0	34 13.9	78 31.8	14 5.7	79 32.2	40 16.3	30 12.2	2 0.8	30 12.2	18 7.3
10・20歳代	58 100.0	11 19.0	0 0.0	26 44.8	0 0.0	3 5.2	22 37.9	5 8.6	2 3.4	4 6.9	4 6.9
30歳代	60 100.0	19 31.7	0 0.0	20 33.3	0 0.0	22 36.7	5 8.3	3 5.0	19 31.7	8 13.3	1 1.7
40歳代	49 100.0	23 46.9	0 0.0	21 42.9	0 0.0	22 44.9	11 22.4	5 10.2	5 10.2	4 8.2	0 0.0
50歳代	53 100.0	22 41.5	0 0.0	12 22.6	0 0.0	16 30.2	7 13.2	5 9.4	7 13.2	9 17.0	2 3.8
60歳代	92 100.0	35 38.0	14 15.2	12 13.0	9 9.8	17 18.5	13 14.1	16 17.4	7 7.6	8 8.7	10 10.9
70歳以上	70 100.0	18 25.7	26 37.1	9 12.9	10 14.3	13 18.6	11 15.7	9 12.9	8 11.4	12 17.1	3 4.3

問 4-2 どのような活動ですか。（あてはまるものすべてに○）

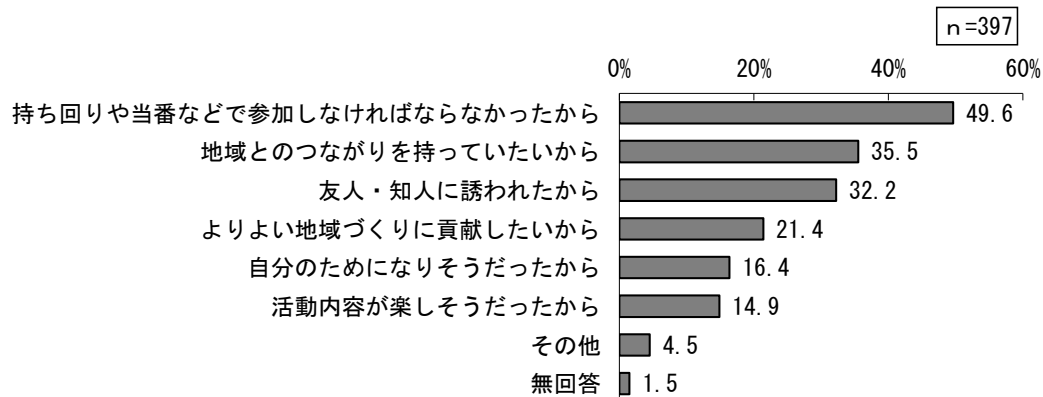
- 参加している（していた）団体等の活動は、「清掃活動・美化活動」54.7%が最も多く、次いで「スポーツ活動・大会」24.7%、「リサイクル活動」21.4%と続く。



	合計	活 動 清 掃 活 動 ・ 美 化	リ サ イ ク ル 活 動	地 域 学 校 支 援 活 動 ・ 学 習 活 動	大 会 ス ポ ー ツ 活 動	承 地 域 の 保 護 文 化 活 動	ア 観 光 ボ ラ ン テ ィ	ア 福 祉 ボ ラ ン テ ィ	動 見 守 り ・ 防 犯 活	防 災 活 動	そ の 他	無 回 答
全体	397 100.0	217 54.7	85 21.4	84 21.2	98 24.7	61 15.4	7 1.8	32 8.1	46 11.6	52 13.1	24 6.0	16 4.0
自治会	133 100.0	109 82.0	26 19.5	23 17.3	24 18.0	32 24.1	3 2.3	8 6.0	14 10.5	13 9.8	9 6.8	2 1.5
シニアクラブ	41 100.0	30 73.2	11 26.8	5 12.2	8 19.5	8 19.5	0 0.0	5 12.2	4 9.8	3 7.3	5 12.2	1 2.4
子ども会	104 100.0	62 59.6	41 39.4	43 41.3	38 36.5	11 10.6	2 1.9	2 1.9	16 15.4	7 6.7	3 2.9	5 4.8
社会福祉協議会	21 100.0	9 42.9	5 23.8	7 33.3	2 9.5	7 33.3	0 0.0	11 52.4	5 23.8	1 4.8	2 9.5	0 0.0
PTA	99 100.0	55 55.6	39 39.4	49 49.5	30 30.3	11 11.1	0 0.0	5 5.1	21 21.2	12 12.1	2 2.0	3 3.0
地域のスポーツクラブ	71 100.0	25 35.2	16 22.5	13 18.3	62 87.3	5 7.0	2 2.8	4 5.6	9 12.7	5 7.0	3 4.2	1 1.4
ボランティア団体・NPO	44 100.0	24 54.5	8 18.2	12 27.3	8 18.2	11 25.0	2 4.5	19 43.2	10 22.7	6 13.6	4 9.1	1 2.3
消防団・自主防災組織	49 100.0	12 24.5	5 10.2	6 12.2	9 18.4	7 14.3	1 2.0	1 2.0	13 26.5	42 85.7	0 0.0	0 0.0
その他	45 100.0	17 37.8	6 13.3	12 26.7	8 17.8	7 15.6	1 2.2	6 13.3	6 13.3	2 4.4	12 26.7	3 6.7

問 4-3 参加したきっかけは何ですか。（主なもの3つまでに○）

- 参加したきっかけは、「持ち回りや当番などで参加しなければならなかったから」49.6%が最も多く、次いで「地域とのつながりを持っていたいから」35.5%、「友人・知人に誘われたから」32.2%と続く。

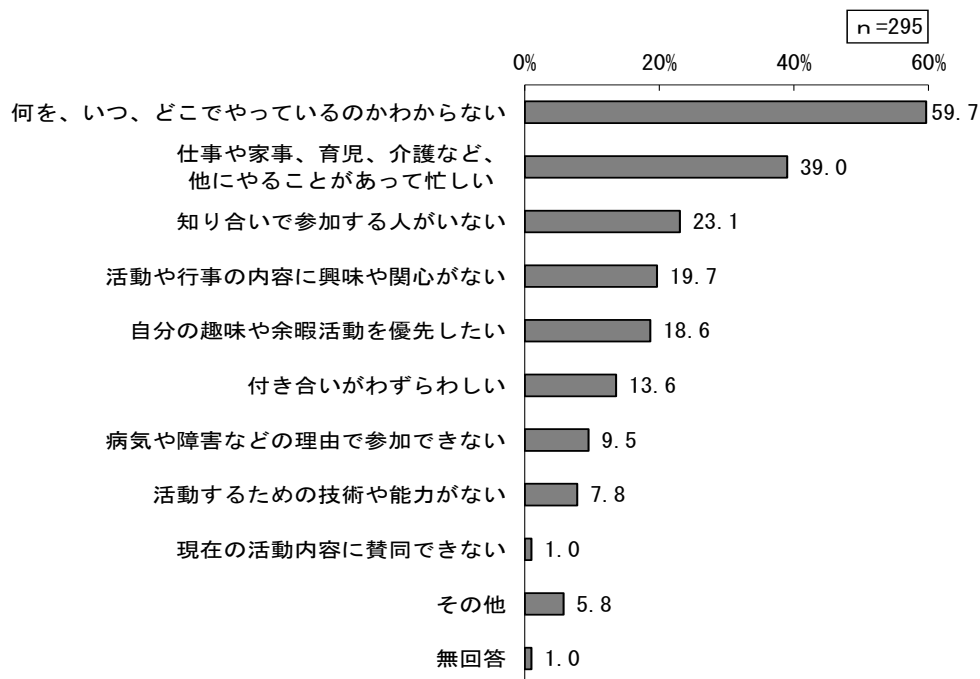


	合計	友人・知人に誘われたから	活動内容が楽しそうだったから	自分のためになりそうだったから	よりよい地域づくりに貢献したいから	地域とのつながりを持っていたいから	持ち回りや当番などで参加しなければならなかったから	その他	無回答
全体	397 100.0	128 32.2	59 14.9	65 16.4	85 21.4	141 35.5	197 49.6	18 4.5	6 1.5
自治会	133 100.0	27 20.3	16 12.0	14 10.5	39 29.3	58 43.6	92 69.2	5 3.8	0 0.0
シニアクラブ	41 100.0	22 53.7	6 14.6	17 41.5	14 34.1	17 41.5	9 22.0	1 2.4	1 2.4
子ども会	104 100.0	38 36.5	19 18.3	9 8.7	18 17.3	33 31.7	61 58.7	7 6.7	0 0.0
社会福祉協議会	21 100.0	9 42.9	3 14.3	5 23.8	11 52.4	8 38.1	6 28.6	2 9.5	0 0.0
PTA	99 100.0	35 35.4	15 15.2	13 13.1	18 18.2	35 35.4	67 67.7	6 6.1	0 0.0
地域のスポーツクラブ	71 100.0	38 53.5	26 36.6	19 26.8	11 15.5	14 19.7	28 39.4	3 4.2	1 1.4
ボランティア団体・NPO	44 100.0	21 47.7	13 29.5	14 31.8	18 40.9	17 38.6	11 25.0	1 2.3	0 0.0
消防団・自主防災組織	49 100.0	24 49.0	2 4.1	10 20.4	11 22.4	25 51.0	23 46.9	1 2.0	0 0.0
その他	45 100.0	17 37.8	7 15.6	10 22.2	8 17.8	17 37.8	22 48.9	4 8.9	0 0.0

問 4-4 は、問 4 で「4 参加したことがない」と回答した方におうかがいします。

問 4-4 参加していない理由はなんですか。（あてはまるものすべてに○）

- 参加していない理由は、「何を、いつ、どこでやっているのかわからない」59.7%が最も多く、次いで「仕事や家事、育児、介護など、他にやることがあって忙しい」39.0%、「知り合いで参加する人がいない」23.1%と続く。

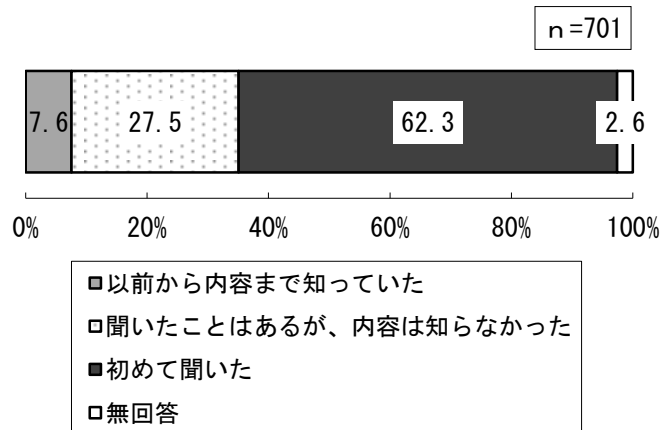


	合計	活動や 行事の 内容に 興味や 関心が ない	何を、 いつ、 どこで やって いるの かわか らない	病気や 障害な どの理 由で参 加でき ない	知り合 いで参 加する 人がい ない	仕事や 家事、 育児、 介護な ど、他 にやる ことが	自分の 趣味や 余暇活 動を優 先した い	活動す るため の技術 や能力 がない	付き合 いがわ ずらわ しい	現在の 活動内 容に賛 同でき ない	その他	無回答
全体	295 100.0	58 19.7	176 59.7	28 9.5	68 23.1	115 39.0	55 18.6	23 7.8	40 13.6	3 1.0	17 5.8	3 1.0
男性	109 100.0	31 28.4	58 53.2	11 10.1	27 24.8	40 36.7	27 24.8	7 6.4	19 17.4	1 0.9	4 3.7	0 0.0
女性	174 100.0	25 14.4	111 63.8	15 8.6	37 21.3	71 40.8	26 14.9	14 8.0	20 11.5	1 0.6	13 7.5	3 1.7
10・20歳代	71 100.0	17 23.9	54 76.1	3 4.2	20 28.2	21 29.6	16 22.5	1 1.4	7 9.9	0 0.0	2 2.8	0 0.0
30歳代	61 100.0	13 21.3	42 68.9	3 4.9	20 32.8	28 45.9	15 24.6	4 6.6	10 16.4	0 0.0	4 6.6	0 0.0
40歳代	41 100.0	11 26.8	23 56.1	1 2.4	6 14.6	23 56.1	6 14.6	2 4.9	8 19.5	0 0.0	4 9.8	0 0.0
50歳代	24 100.0	5 20.8	12 50.0	1 4.2	5 20.8	11 45.8	4 16.7	2 8.3	3 12.5	1 4.2	3 12.5	1 4.2
60歳代	45 100.0	6 13.3	20 44.4	8 17.8	8 17.8	17 37.8	5 11.1	4 8.9	5 11.1	1 2.2	2 4.4	0 0.0
70歳以上	43 100.0	4 9.3	20 46.5	10 23.3	6 14.0	11 25.6	7 16.3	8 18.6	6 14.0	0 0.0	2 4.7	2 4.7

Ⅱ-3. 協働に対する考え方について

問5 あなたは、「協働」という言葉を知っていますか。（1つに○）

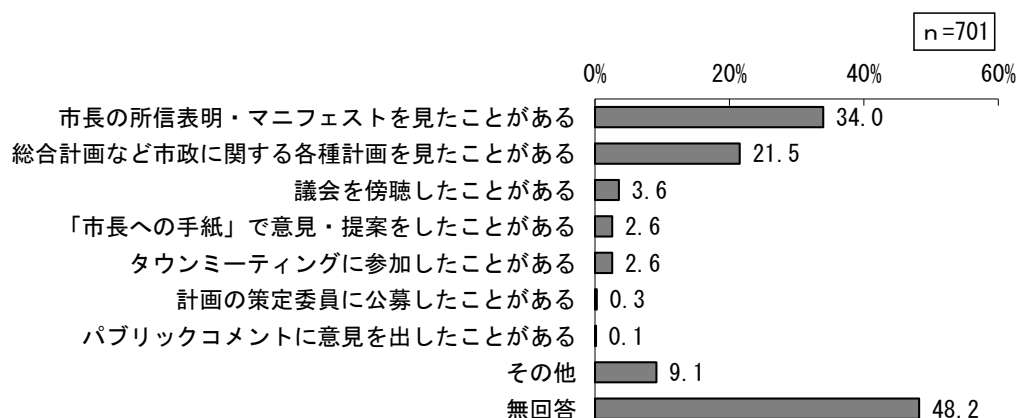
- 「協働」という言葉について、「初めて聞いた」62.3%「聞いたことはあるが、内容は知らなかった」27.5%、「以前から内容まで知っていた」7.6%。



	合計	以前から内容まで知っていた	聞いたことはあるが、内容は知らなかった	初めて聞いた	無回答
全体	701 100.0	53 7.6	193 27.5	437 62.3	18 2.6
男性	246 100.0	19 7.7	64 26.0	157 63.8	6 2.4
女性	426 100.0	30 7.0	119 27.9	269 63.1	8 1.9
10・20歳代	129 100.0	9 7.0	38 29.5	81 62.8	1 0.8
30歳代	122 100.0	6 4.9	33 27.0	82 67.2	1 0.8
40歳代	91 100.0	9 9.9	13 14.3	68 74.7	1 1.1
50歳代	78 100.0	5 6.4	21 26.9	52 66.7	0 0.0
60歳代	139 100.0	9 6.5	42 30.2	85 61.2	3 2.2
70歳以上	117 100.0	12 10.3	37 31.6	60 51.3	8 6.8

問6 あなたは、まちづくりに関して、以下のことをしたことがありますか。（あてはまるものすべてに○）

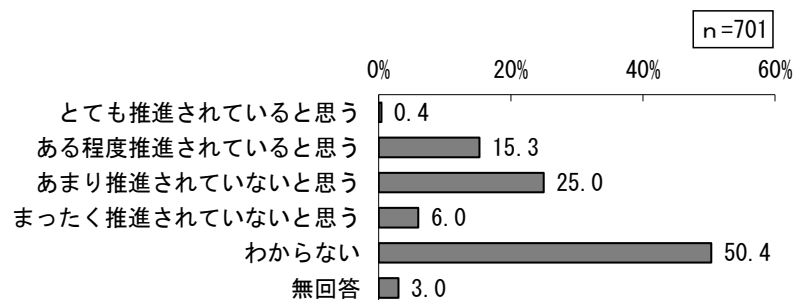
- まちづくりに関してやったことがあるのは、「市長の所信表明・マニフェストを見たことがある」34.0%が最も多く、次いで「総合計画など市政に関する各種計画を見たことがある」21.5%、「その他」9.1%と続く。



	合計	市長の所信表明・マニフェストを見たことがある	総合計画など市政に関する各種計画を見たことがある	パブリックコメントに意見を出したことがある	「市長への手紙」で意見・提案をしたことがある	タウンミーティングに参加したことがある	議会を傍聴したことがある	計画の策定委員に公募したことがある	その他	無回答
全体	701 100.0	238 34.0	151 21.5	1 0.1	18 2.6	18 2.6	25 3.6	2 0.3	64 9.1	338 48.2
男性	246 100.0	86 35.0	59 24.0	0 0.0	4 1.6	9 3.7	9 3.7	0 0.0	23 9.3	105 42.7
女性	426 100.0	147 34.5	88 20.7	1 0.2	13 3.1	7 1.6	16 3.8	2 0.5	40 9.4	214 50.2
10・20歳代	129 100.0	27 20.9	10 7.8	0 0.0	2 1.6	3 2.3	5 3.9	0 0.0	16 12.4	74 57.4
30歳代	122 100.0	38 31.1	26 21.3	0 0.0	1 0.8	3 2.5	1 0.8	0 0.0	17 13.9	61 50.0
40歳代	91 100.0	34 37.4	17 18.7	0 0.0	1 1.1	3 3.3	1 1.1	0 0.0	7 7.7	44 48.4
50歳代	78 100.0	27 34.6	17 21.8	0 0.0	2 2.6	2 2.6	2 2.6	0 0.0	5 6.4	35 44.9
60歳代	139 100.0	57 41.0	40 28.8	1 0.7	4 2.9	2 1.4	5 3.6	1 0.7	12 8.6	59 42.4
70歳以上	117 100.0	50 42.7	38 32.5	0 0.0	7 6.0	4 3.4	11 9.4	1 0.9	6 5.1	49 41.9

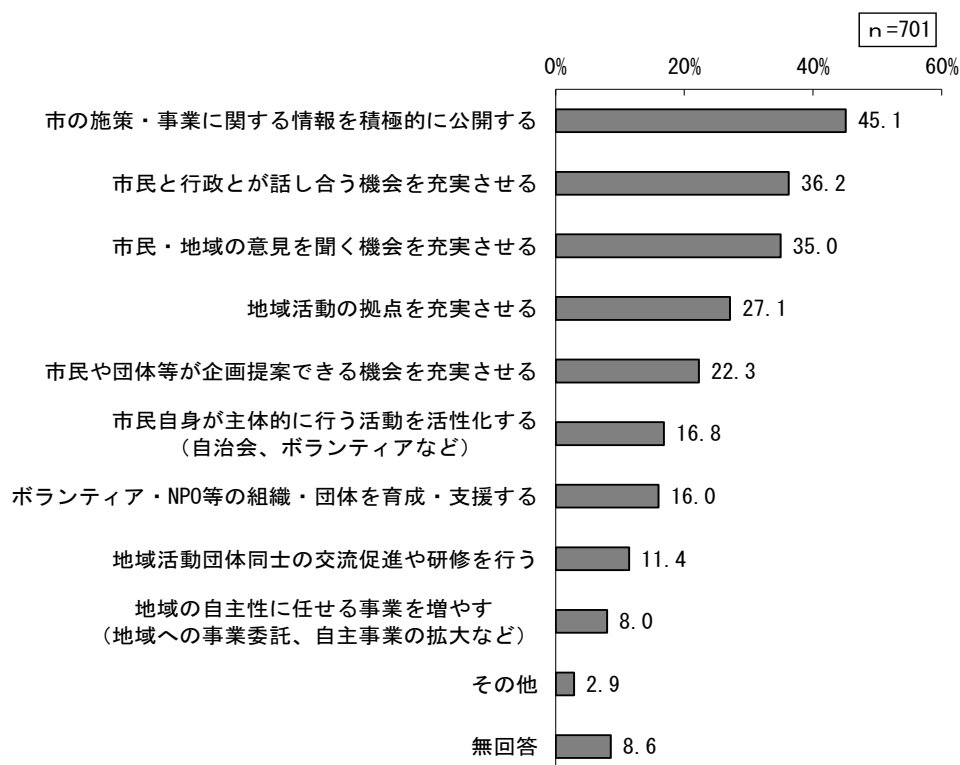
問7 あなたは、匝瑳市では、現在、協働によるまちづくりが推進されていると思いますか。（1つに○）

- 匝瑳市で、協働によるまちづくりが推進されていると思うかは、「わからない」50.4%が最も多く、次いで「あまり推進されていないと思う」25.0%、「ある程度推進されていると思う」15.3%と続く。



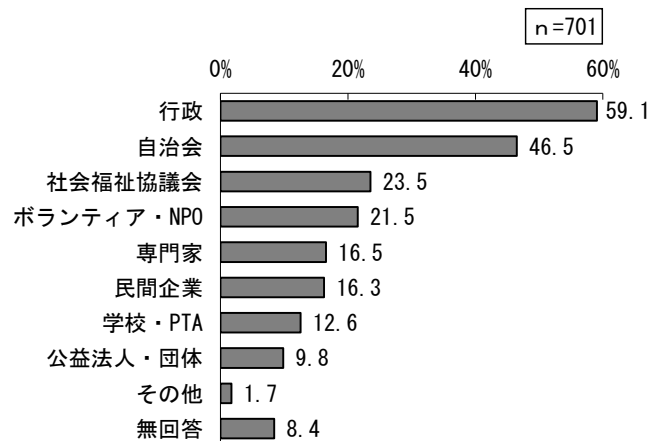
問8 市民と行政が力を合わせてまちづくりを進める取組みで、何が重要と考えますか。（3つまで○）

- 市民と行政が力を合わせてまちづくりを進める取組みで、重要だと考えることは、「市の施策・事業に関する情報を積極的に公開する」45.1%が最も多く、次いで「市民と行政とが話し合う機会を充実させる」36.2%、「市民・地域の意見を聞く機会を充実させる」35.0%と続く。



問9 市民あるいは団体同士が相互に連携し合って活動していくためには、どこがリーダーシップを発揮すべきだと思いますか。（主なものを3つまでに○）

- 市民あるいは団体同士が相互に連携し合って活動していくために、リーダーシップを発揮すべきと思うのは、「行政」59.1%が最も多く、次いで「自治会」46.5%、「社会福祉協議会」23.5%と続く。



問10 協働のまちづくりについてのご意見・ご提案がありましたら、お聞かせください。

※その他・自由意見 報告書参照

Ⅲ 調査結果（地域活動団体）

Ⅲ-1. 回答者について

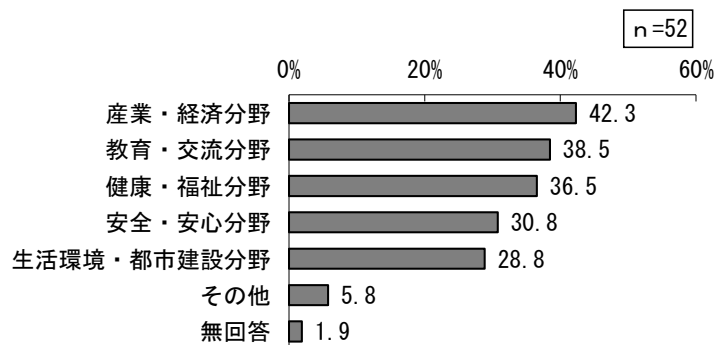
問1 貴団体について、それぞれの項目ごとにあてはまる番号を選んでください。
（それぞれ1つに○）

（1）団体名（略）

（2）メンバー・会員数（略）

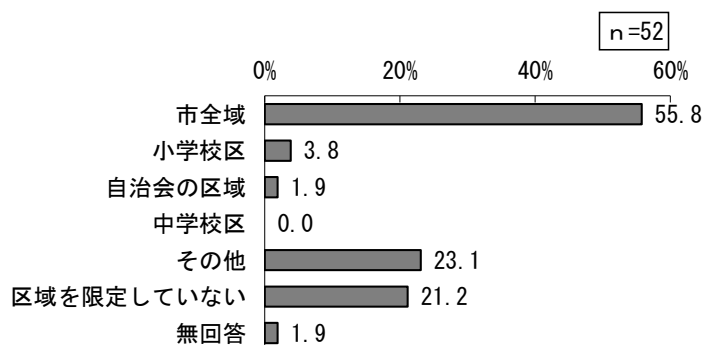
（3）活動分野（あてはまるものすべてに○）

○ 活動分野は「産業・経済分野」42.3%が最も多く、次いで「教育・交流分野」38.5%、「健康・福祉分野」36.5%と続く。



（4）活動範囲（1つに○）

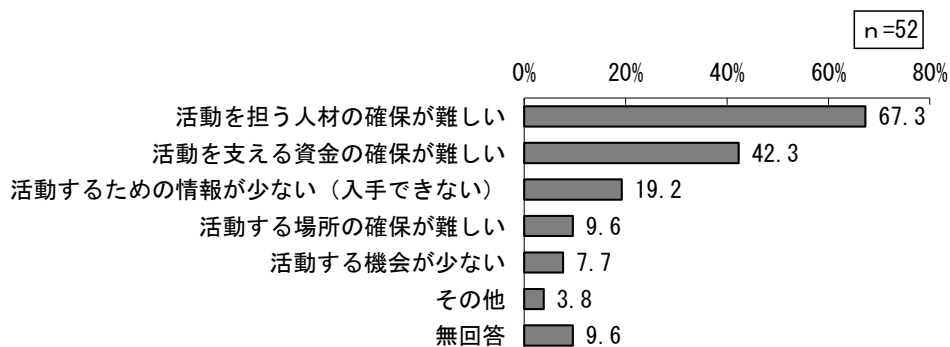
○ 活動範囲は「市全域」55.8%が最も多く、次いで「その他」23.1%、「区域を限定していない」21.2%と続く。



Ⅲ-2. 活動における課題について

問2 貴団体の活動において、課題となっている事項はなんですか。（あてはまるものすべてに○）

- 団体の活動において課題となっている事は、「活動を担う人材の確保が難しい」67.3%が最も多く、次いで「活動を支える資金の確保が難しい」42.3%、「活動するための情報が少ない（入手できない）」19.2%と続く。

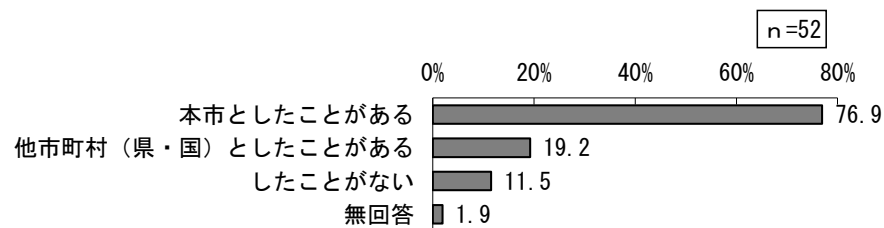


	合計	活動する機会が少ない	活動を担う人材の確保が難しい	活動を支える資金の確保が難しい	活動する場所の確保が難しい	活動するための情報が少ない（入手できない）	その他	無回答
全体	52 100.0	4 7.7	35 67.3	22 42.3	5 9.6	10 19.2	2 3.8	5 9.6
健康・福祉分野	19 100.0	0 0.0	17 89.5	9 47.4	2 10.5	3 15.8	0 0.0	0 0.0
産業・経済分野	22 100.0	2 9.1	11 50.0	9 40.9	1 4.5	5 22.7	1 4.5	3 13.6
生活環境・都市建設分野	15 100.0	1 6.7	10 66.7	6 40.0	3 20.0	4 26.7	1 6.7	0 0.0
安全・安心分野	16 100.0	0 0.0	11 68.8	9 56.3	1 6.3	3 18.8	0 0.0	2 12.5
教育・交流分野	20 100.0	2 10.0	16 80.0	11 55.0	3 15.0	5 25.0	0 0.0	1 5.0
その他	3 100.0	0 0.0	2 66.7	2 66.7	1 33.3	0 0.0	0 0.0	1 33.3

Ⅲ-3. 市との協働について

問3 貴団体では、これまで行政と協働で事業を実施したことはありますか。（1つに○）

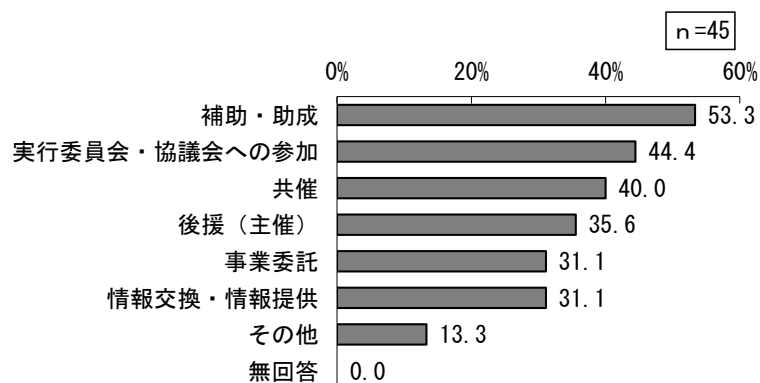
- これまでに行政と協働で事業を実施したことは、「本市としたことがある」76.9%、「他市町村（県・国）としたことがある」19.2%、「したことがない」11.5%と続く。



	合計	本市としたことがある	他市町村（県・国）としたことがある	したことがない	無回答
全体	52 100.0	40 76.9	10 19.2	6 11.5	1 1.9
健康・福祉分野	19 100.0	17 89.5	2 10.5	2 10.5	0 0.0
産業・経済分野	22 100.0	16 72.7	5 22.7	3 13.6	1 4.5
生活環境・都市建設分野	15 100.0	13 86.7	2 13.3	2 13.3	0 0.0
安全・安心分野	16 100.0	15 93.8	1 6.3	1 6.3	0 0.0
教育・交流分野	20 100.0	15 75.0	3 15.0	3 15.0	0 0.0
その他	3 100.0	3 100.0	1 33.3	0 0.0	0 0.0

付問 3-1 それはどのような形態ですか。（あてはまるものすべてに○）

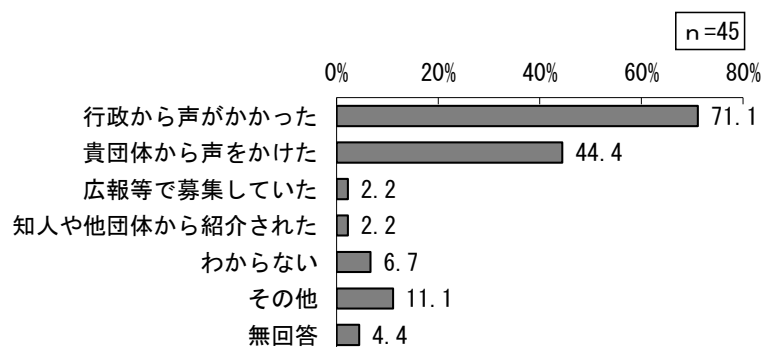
- 行政と協働で事業を実施したことがある場合の形態は、「補助・助成」53.3%が最も多く、次いで「実行委員会・協議会への参加」44.4%、「共催」40.0%と続く。



	合計	事業委託	共催	後援（主催）	補助・助成	協議会・実行委員会への参加	情報交換・情報提供	その他	無回答
全体	45 100.0	14 31.1	18 40.0	16 35.6	24 53.3	20 44.4	14 31.1	6 13.3	0 0.0
健康・福祉分野	17 100.0	6 35.3	7 41.2	7 41.2	10 58.8	7 41.2	5 29.4	4 23.5	0 0.0
産業・経済分野	18 100.0	5 27.8	9 50.0	8 44.4	10 55.6	10 55.6	8 44.4	2 11.1	0 0.0
生活環境・都市建設分野	13 100.0	3 23.1	6 46.2	4 30.8	6 46.2	5 38.5	5 38.5	2 15.4	0 0.0
安全・安心分野	15 100.0	7 46.7	6 40.0	8 53.3	9 60.0	10 66.7	6 40.0	0 0.0	0 0.0
教育・交流分野	17 100.0	6 35.3	9 52.9	9 52.9	8 47.1	7 41.2	7 41.2	3 17.6	0 0.0
その他	3 100.0	0 0.0	1 33.3	0 0.0	1 33.3	0 0.0	1 33.3	2 66.7	0 0.0

付問 3-2 それはどのようなきっかけでしたか。（あてはまるものすべてに○）

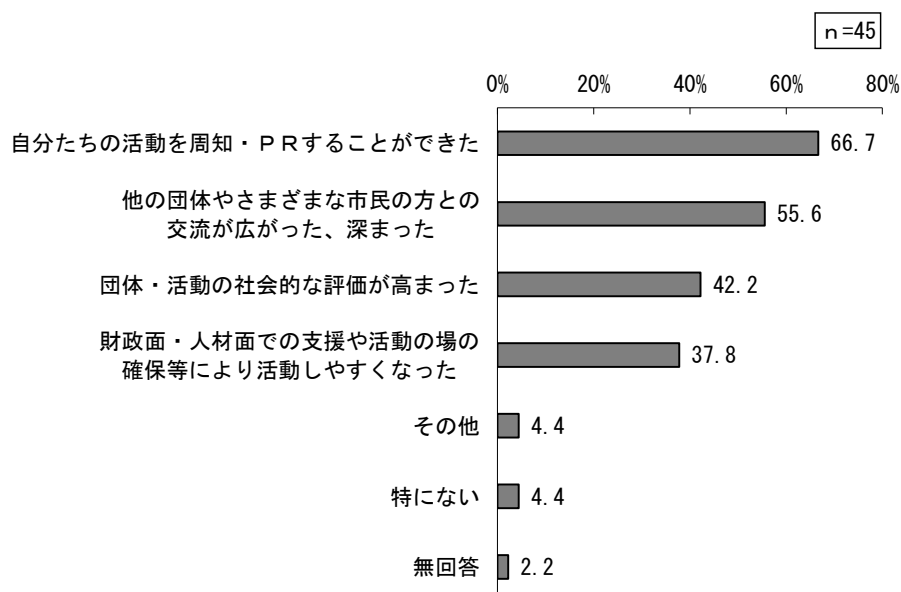
- 行政と協働で事業を実施したことがある場合で、そのきっかけは、「行政から声がかかった」71.1%が最も多く、次いで「貴団体から声をかけた」44.4%、「その他」11.1%と続く。



	合計	行政から声がかかった	貴団体から声をかけた	広報等で募集していた	知人や他団体から紹介された	わからない	その他	無回答
全体	45 100.0	32 71.1	20 44.4	1 2.2	1 2.2	3 6.7	5 11.1	2 4.4
健康・福祉分野	17 100.0	9 52.9	10 58.8	0 0.0	0 0.0	2 11.8	2 11.8	0 0.0
産業・経済分野	18 100.0	15 83.3	10 55.6	1 5.6	1 5.6	1 5.6	2 11.1	0 0.0
生活環境・都市建設分野	13 100.0	11 84.6	5 38.5	0 0.0	0 0.0	1 7.7	2 15.4	0 0.0
安全・安心分野	15 100.0	11 73.3	6 40.0	1 6.7	0 0.0	2 13.3	1 6.7	1 6.7
教育・交流分野	17 100.0	10 58.8	8 47.1	1 5.9	0 0.0	2 11.8	2 11.8	1 5.9
その他	3 100.0	3 100.0	1 33.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0

付問 3-3 協働してよかったと思うことは何ですか。（あてはまるものすべてに○）

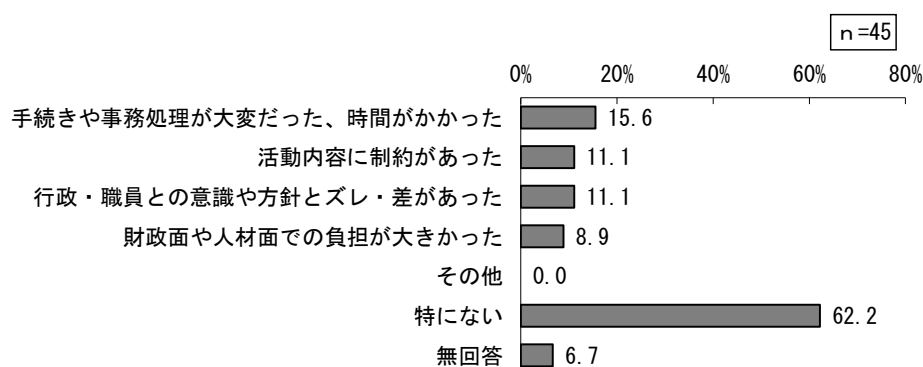
- 行政と協働で事業を実施したことがある場合で、協働してよかったと思うことは、「自分たちの活動を周知・PR することができた」66.7%が最も多く、次いで「他の団体やさまざまな市民の方との交流が広がった、深まった」55.6%、「団体・活動の社会的な評価が高まった」42.2%と続く。



	合計	自分たちの活動を周知・PRすることができた	財政面・人材面での支援や活動の場の確保等により活動しやすくなった	他の団体やさまざまな市民の方との交流が広がった、深まった	団体・活動の社会的な評価が高まった	その他	特にない	無回答
全体	45 100.0	30 66.7	17 37.8	25 55.6	19 42.2	2 4.4	2 4.4	1 2.2
健康・福祉分野	17 100.0	11 64.7	10 58.8	7 41.2	5 29.4	0 0.0	2 11.8	0 0.0
産業・経済分野	18 100.0	13 72.2	5 27.8	15 83.3	11 61.1	1 5.6	0 0.0	0 0.0
生活環境・都市建設分野	13 100.0	8 61.5	5 38.5	7 53.8	8 61.5	1 7.7	0 0.0	0 0.0
安全・安心分野	15 100.0	12 80.0	6 40.0	9 60.0	6 40.0	0 0.0	0 0.0	1 6.7
教育・交流分野	17 100.0	10 58.8	8 47.1	11 64.7	9 52.9	1 5.9	2 11.8	0 0.0
その他	3 100.0	2 66.7	2 66.7	1 33.3	1 33.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0

付問 3-4 協働してよくなかったと思うことは何ですか。（あてはまるものすべてに○）

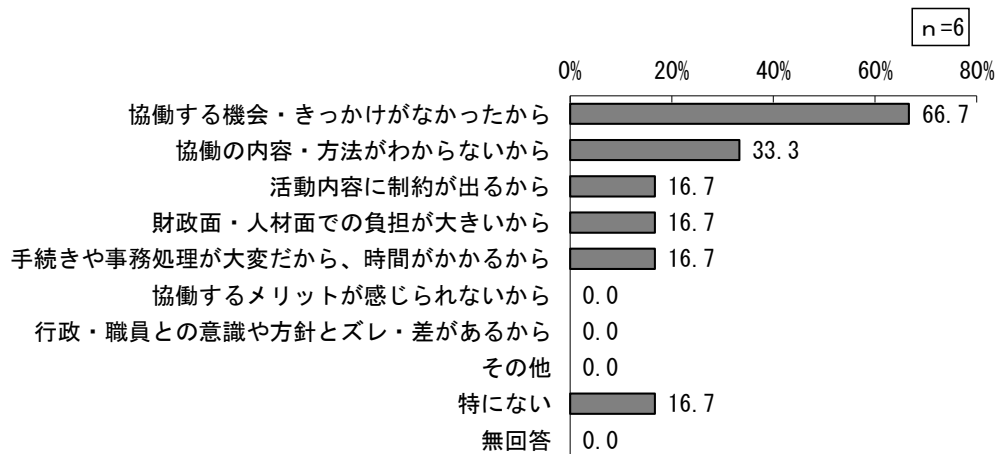
- 行政と協働で事業を実施したことがある場合で、協働してよくなかったと思うことは、「手続きや事務処理が大変だった、時間がかかった」15.6%が最も多く、次いで「活動内容に制約があった」「行政・職員との意識や方針のズレ・差があった」ともに11.1%と続く。



	合計	活動内容に制約があった	財政面や人材面での負担が大きかった	行政・職員との意識や方針とズレ・差があった	手続きや事務処理が大変だった、時間がかかった	その他	特になし	無回答
全体	45 100.0	5 11.1	4 8.9	5 11.1	7 15.6	0 0.0	28 62.2	3 6.7
健康・福祉分野	17 100.0	3 17.6	0 0.0	4 23.5	3 17.6	0 0.0	10 58.8	1 5.9
産業・経済分野	18 100.0	3 16.7	1 5.6	2 11.1	4 22.2	0 0.0	11 61.1	2 11.1
生活環境・都市建設分野	13 100.0	1 7.7	1 7.7	2 15.4	4 30.8	0 0.0	9 69.2	0 0.0
安全・安心分野	15 100.0	2 13.3	1 6.7	3 20.0	3 20.0	0 0.0	9 60.0	0 0.0
教育・交流分野	17 100.0	2 11.8	2 11.8	2 11.8	4 23.5	0 0.0	10 58.8	0 0.0
その他	3 100.0	0 0.0	1 33.3	1 33.3	1 33.3	0 0.0	2 66.7	0 0.0

付問 3-5 協働していない理由は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

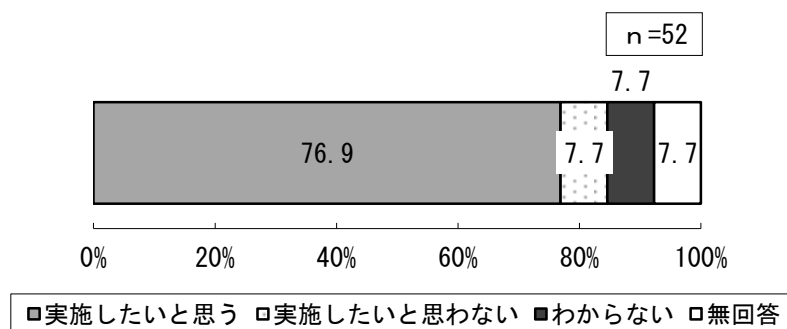
- 行政と協働で事業を実施したことがない場合の、その理由は、「協働する機会・きっかけがなかったから」66.7%が最も多く、次いで「協働の内容・方法がわからないから」33.3%と続く。



	合計	協働する機会・きっかけがなかったから	協働の内容・方法がわからないから	協働するメリットが感じられないから	活動内容に制約が出るから	財政面・人材面での負担が大きいから	行政・職員との意識や方針とズレ・差があるから	手続きや事務処理が大変だから、時間がかかるから	その他	特にない	無回答
全体	6 100.0	4 66.7	2 33.3	0 0.0	1 16.7	1 16.7	0 0.0	1 16.7	0 0.0	1 16.7	0 0.0
健康・福祉分野	2 100.0	2 100.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	1 50.0	0 0.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
産業・経済分野	3 100.0	2 66.7	1 33.3	0 0.0	0 0.0	1 33.3	0 0.0	1 33.3	0 0.0	1 33.3	0 0.0
生活環境・都市建設分野	2 100.0	1 50.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	1 50.0	0 0.0	1 50.0	0 0.0	1 50.0	0 0.0
安全・安心分野	1 100.0	1 100.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
教育・交流分野	3 100.0	2 66.7	2 66.7	0 0.0	1 33.3	1 33.3	0 0.0	1 33.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0
その他	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0

問4 今後、行政と協働で事業を実施したいと思いますか。（1つに○）

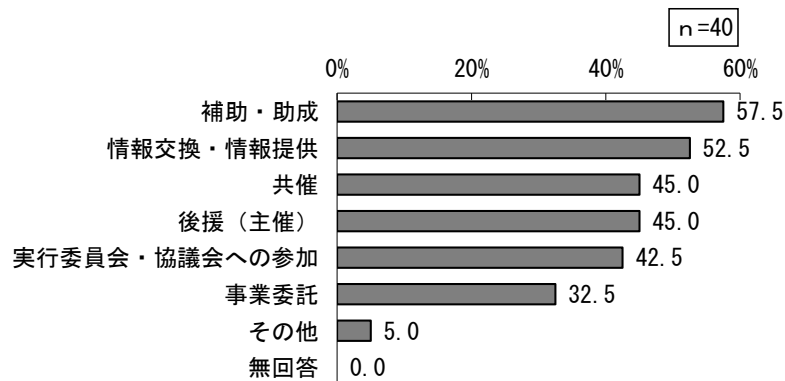
- 今後、行政と協働で事業を実施したいかは、「実施したいと思う」76.9%、「実施したいと思わない」7.7%、「わからない」7.7%。



	合計	実施したい と思う	実施したい と思わない	わからない	無回答
全体	52 100.0	40 76.9	4 7.7	4 7.7	4 7.7
健康・福祉分野	19 100.0	16 84.2	0 0.0	2 10.5	1 5.3
産業・経済分野	22 100.0	17 77.3	2 9.1	2 9.1	1 4.5
生活環境・都市建設 分野	15 100.0	12 80.0	1 6.7	1 6.7	1 6.7
安全・安心分野	16 100.0	12 75.0	1 6.3	1 6.3	2 12.5
教育・交流分野	20 100.0	15 75.0	1 5.0	2 10.0	2 10.0
その他	3 100.0	3 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0

付問 4-1 それはどのような形態ですか。（あてはまるものすべてに○）

- 行政と協働で事業を実施したい場合の形態は、「補助・助成」57.5%が最も多く、次いで「情報交換・情報提供」52.5%と続く。



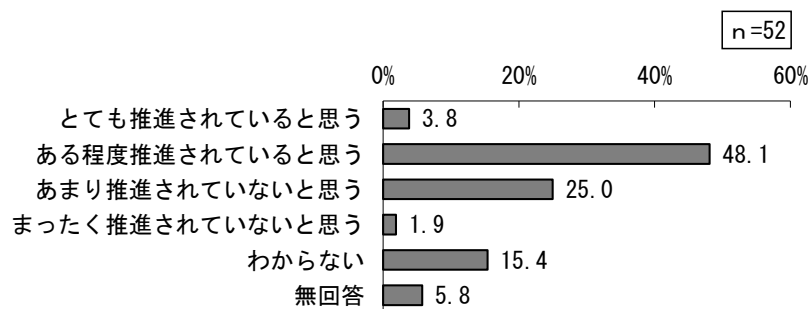
	合計	事業委託	共催	後援（主催）	補助・助成	協議会・実行委員会への参加	情報交換・情報提供	その他	無回答
全体	40 100.0	13 32.5	18 45.0	18 45.0	23 57.5	17 42.5	21 52.5	2 5.0	0 0.0
健康・福祉分野	16 100.0	6 37.5	7 43.8	6 37.5	10 62.5	7 43.8	8 50.0	0 0.0	0 0.0
産業・経済分野	17 100.0	6 35.3	8 47.1	8 47.1	12 70.6	9 52.9	10 58.8	0 0.0	0 0.0
生活環境・都市建設分野	12 100.0	4 33.3	7 58.3	3 25.0	6 50.0	4 33.3	7 58.3	0 0.0	0 0.0
安全・安心分野	12 100.0	7 58.3	5 41.7	6 50.0	8 66.7	6 50.0	8 66.7	0 0.0	0 0.0
教育・交流分野	15 100.0	6 40.0	9 60.0	9 60.0	6 40.0	8 53.3	8 53.3	0 0.0	0 0.0
その他	3 100.0	0 0.0	1 33.3	0 0.0	1 33.3	0 0.0	1 33.3	2 66.7	0 0.0

付問 4-2 どのような協働に取り組みたいと思いますか。また、どのような協働ができるとよいと思いますか。

※その他・自由意見 報告書参照

問5 匝瑳市では、協働によるまちづくりが推進されていると思いますか。（1つに○）

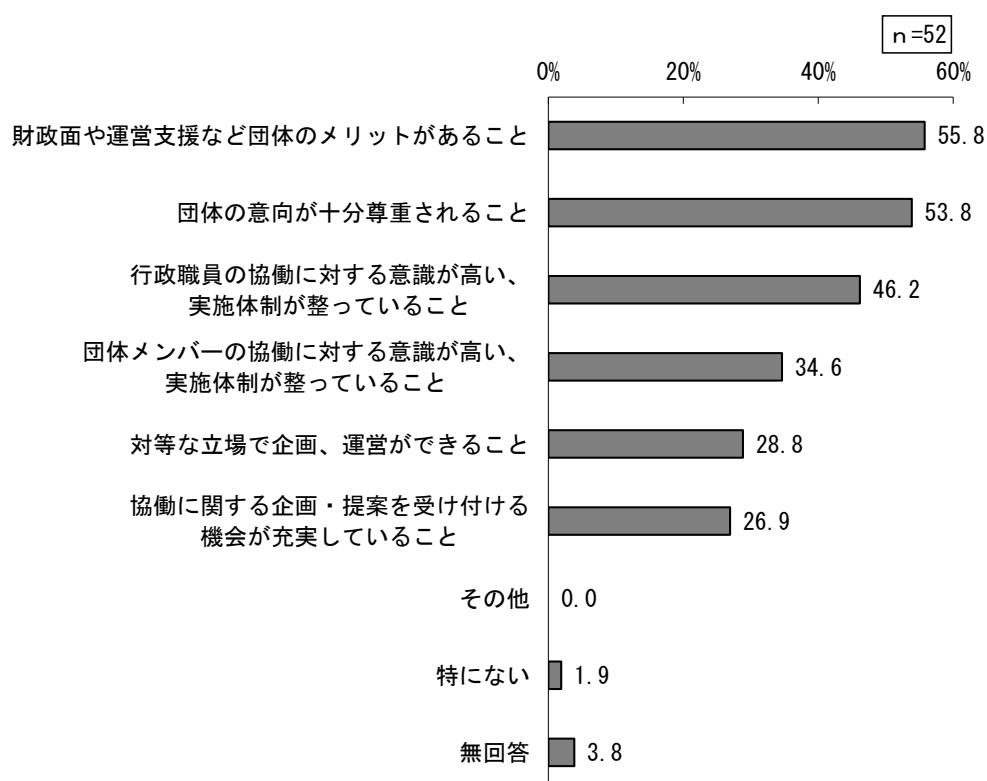
- 匝瑳市が協働によるまちづくりが推進されていると思うかは、「ある程度推進されていると思う」48.1%が最も多く、「あまり推進されていないと思う」25.0%、「わからない」15.4%と続く。



	合計	とても推進 されている と思う	ある程度推 進されてい ると思う	あまり推進 されていな いと思う	まったく推 進されてい ないと思う	わからない	無回答
全体	52 100.0	2 3.8	25 48.1	13 25.0	1 1.9	8 15.4	3 5.8
健康・福祉分野	19 100.0	1 5.3	6 31.6	7 36.8	1 5.3	4 21.1	0 0.0
産業・経済分野	22 100.0	1 4.5	8 36.4	6 27.3	0 0.0	4 18.2	3 13.6
生活環境・都市建設 分野	15 100.0	0 0.0	6 40.0	5 33.3	0 0.0	3 20.0	1 6.7
安全・安心分野	16 100.0	1 6.3	9 56.3	3 18.8	0 0.0	3 18.8	0 0.0
教育・交流分野	20 100.0	1 5.0	8 40.0	6 30.0	0 0.0	5 25.0	0 0.0
その他	3 100.0	0 0.0	2 66.7	1 33.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0

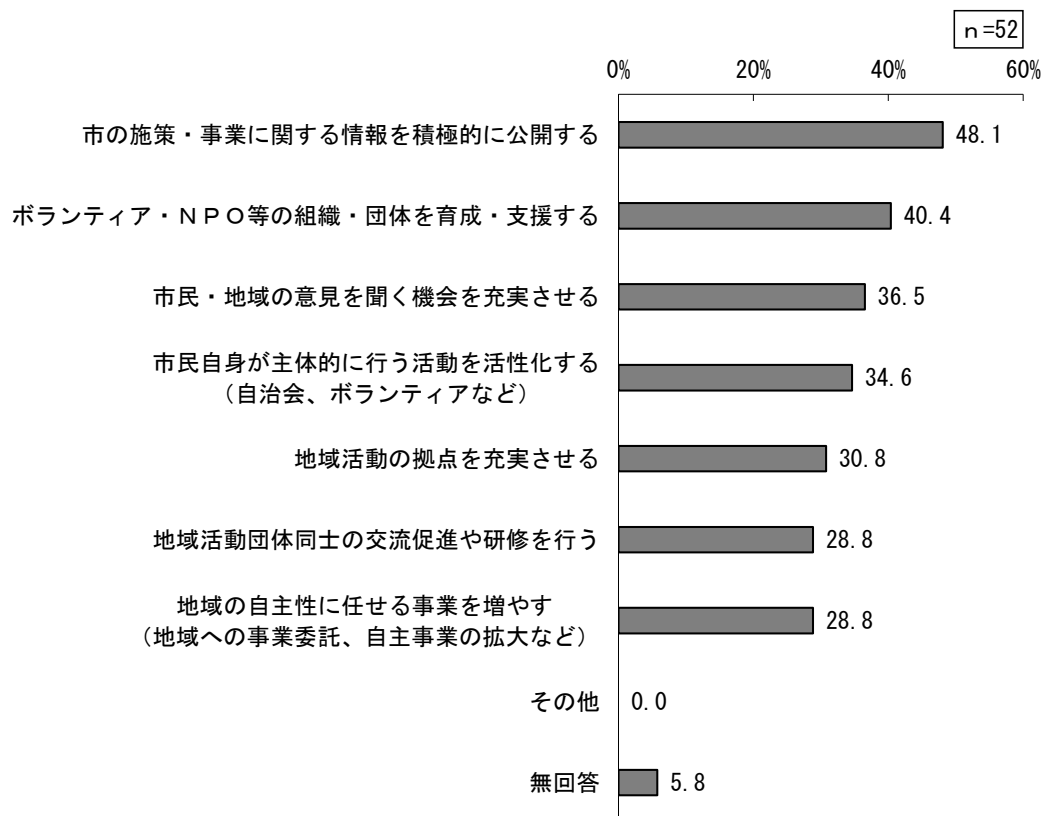
問6 地域活動団体と行政の協働を進めるためには、どのような環境・条件が重要だと思いますか。（主なもの3つまで○）

- 地域活動団体と行政の協働を進めるために重要だと思う環境・条件は、「財政面や運営支援など団体のメリットがあること」55.8%が最も多く、次いで「団体の意向が十分尊重されること」53.8%、「行政職員の協働に対する意識が高い、実施体制が整っていること」46.2%と続く。



問7 市民と行政が力を合わせてまちづくりを進める取組みで、何が重要と考えますか。（主なもの3つまで○）

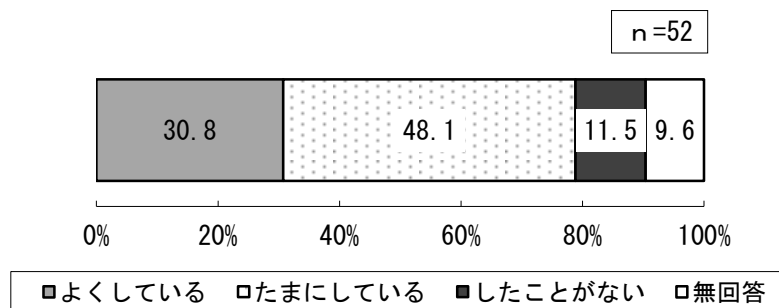
- 市民と行政が力を合わせてまちづくりを進める取組みで、重要だと考えることは、「市の施策・事業に関する情報を積極的に公開する」48.1%が最も多く、次いで「ボランティア・NPO等の組織・団体を育成・支援する」40.4%、「市民・地域の意見を聞く機会を充実させる」36.5%と続く。



Ⅱ-4. 他の団体との協働について

問8 貴団体では、他の団体と連携して活動したり、事業を実施していますか。
(1つに○)

- 他の団体との連携・活動・事業の実施は、「たまにしている」48.1%、「よくしている」30.8%、「したことがない」11.5%と続く。

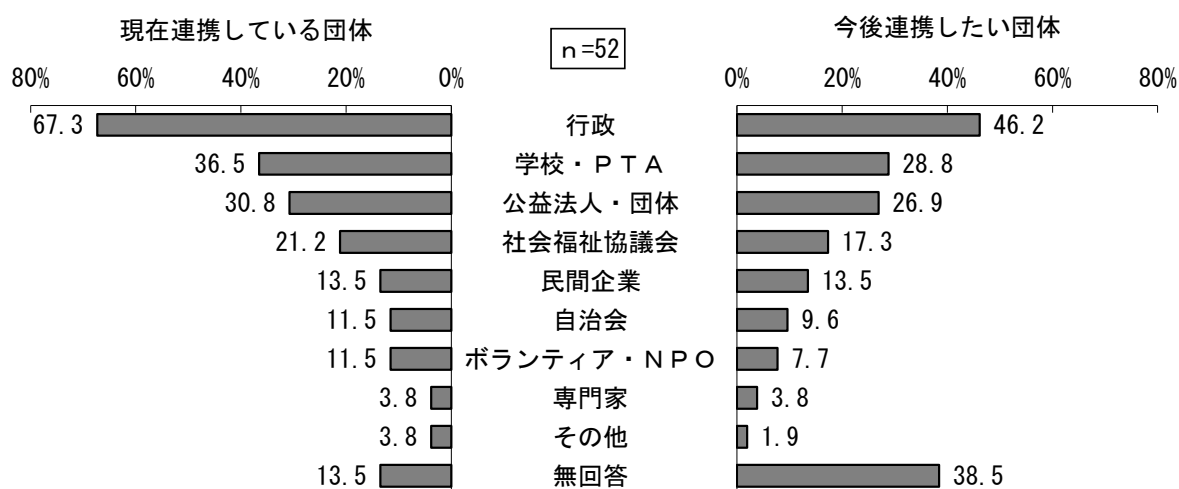


	合計	よくしている	たまにしている	したことがない	無回答
全体	52 100.0	16 30.8	25 48.1	6 11.5	5 9.6
健康・福祉分野	19 100.0	3 15.8	12 63.2	2 10.5	2 10.5
産業・経済分野	22 100.0	8 36.4	11 50.0	1 4.5	2 9.1
生活環境・都市建設分野	15 100.0	5 33.3	9 60.0	1 6.7	0 0.0
安全・安心分野	16 100.0	6 37.5	8 50.0	0 0.0	2 12.5
教育・交流分野	20 100.0	3 15.0	13 65.0	3 15.0	1 5.0
その他	3 100.0	2 66.7	1 33.3	0 0.0	0 0.0

問9 貴団体では、現在、どの団体と連携していますか。また、今後、どの団体と連携したいと考えていますか。

(現在、今後それぞれ番号に○をつけ、連携の内容を記入してください。)

○ 現在連携している団体と今後の連携希望は、現在・今後ともに上位から「行政」「学校・PTA」「公益法人・団体」の順で多くなっている。(無回答は除く)



【現在、連携している団体】

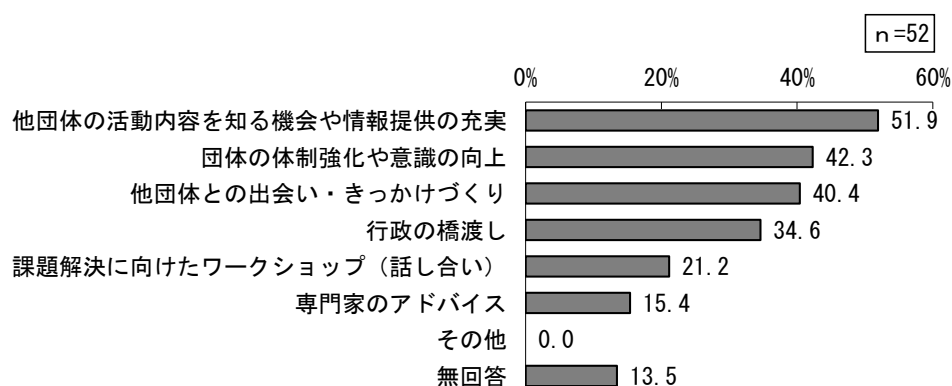
	合計	自治会	社会福祉協議会	Nボランティア・	学校・PTA	民間企業	専門家	行政	公益法人・団体	その他	無回答
全体	52 100.0	6 11.5	11 21.2	6 11.5	19 36.5	7 13.5	2 3.8	35 67.3	16 30.8	2 3.8	7 13.5
健康・福祉分野	19 100.0	4 21.1	10 52.6	3 15.8	11 57.9	4 21.1	2 10.5	12 63.2	6 31.6	0 0.0	1 5.3
産業・経済分野	22 100.0	1 4.5	1 4.5	2 9.1	6 27.3	2 9.1	0 0.0	16 72.7	7 31.8	1 4.5	2 9.1
生活環境・都市建設分野	15 100.0	2 13.3	3 20.0	2 13.3	6 40.0	0 0.0	0 0.0	8 53.3	3 20.0	1 6.7	1 6.7
安全・安心分野	16 100.0	4 25.0	6 37.5	2 12.5	9 56.3	3 18.8	1 6.3	9 56.3	8 50.0	0 0.0	1 6.3
教育・交流分野	20 100.0	5 25.0	4 20.0	2 10.0	10 50.0	4 20.0	1 5.0	12 60.0	9 45.0	0 0.0	3 15.0
その他	3 100.0	0 0.0	0 0.0	1 33.3	1 33.3	0 0.0	0 0.0	3 100.0	1 33.3	1 33.3	0 0.0

【今後、連携したい団体】

	合計	自治会	社会福祉協議会	NPOボランティア・	学校・PTA	民間企業	専門家	行政	公益法人・団体	その他	無回答
全体	52 100.0	5 9.6	9 17.3	4 7.7	15 28.8	7 13.5	2 3.8	24 46.2	14 26.9	1 1.9	20 38.5
健康・福祉分野	19 100.0	4 21.1	4 21.1	2 10.5	8 42.1	3 15.8	1 5.3	8 42.1	6 31.6	0 0.0	6 31.6
産業・経済分野	22 100.0	1 4.5	3 13.6	2 9.1	5 22.7	3 13.6	0 0.0	11 50.0	8 36.4	0 0.0	7 31.8
生活環境・都市建設分野	15 100.0	1 6.7	3 20.0	1 6.7	5 33.3	1 6.7	0 0.0	6 40.0	2 13.3	0 0.0	6 40.0
安全・安心分野	16 100.0	2 12.5	2 12.5	1 6.3	4 25.0	4 25.0	1 6.3	5 31.3	5 31.3	0 0.0	8 50.0
教育・交流分野	20 100.0	4 20.0	3 15.0	1 5.0	8 40.0	5 25.0	2 10.0	10 50.0	6 30.0	0 0.0	6 30.0
その他	3 100.0	0 0.0	2 66.7	1 33.3	2 66.7	1 33.3	0 0.0	3 100.0	2 66.7	1 33.3	0 0.0

問10 団体同士の連携した活動を促進していくために、何が必要だと思いますか。
(主なもの3つまでに○)

- 団体同士の連携した活動を促進していくために必要だと思うことは、「他団体の活動内容を知る機会や情報提供の充実」51.9%が最も多く、次いで「団体の体制強化や意識の向上」42.3%、「他団体との出会い・きっかけづくり」40.4%と続く。



問11 最後に、市民協働のまちづくりや市民協働指針の策定について、ご意見・ご提案がありましたら、ご記入ください。

※その他・自由意見 報告書参照

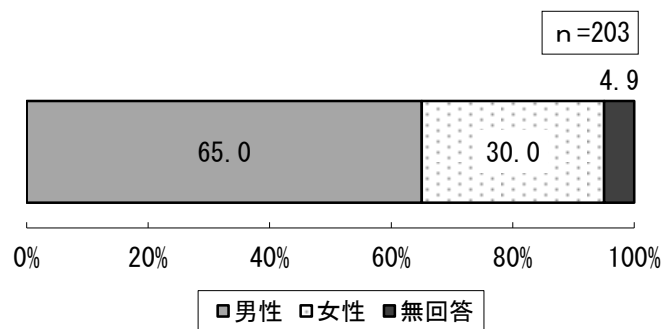
IV 調査結果（職員）

IV-1. 回答者について

問1 あなたの性別・年齢・所属部署をご回答ください。（それぞれ1つに○）

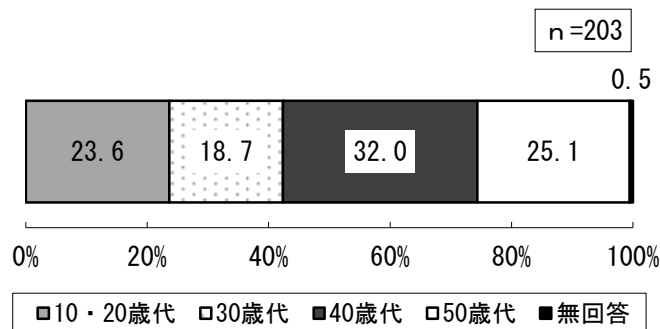
（1）性別

○ 性別は「男性」65.0%、「女性」30.0%。



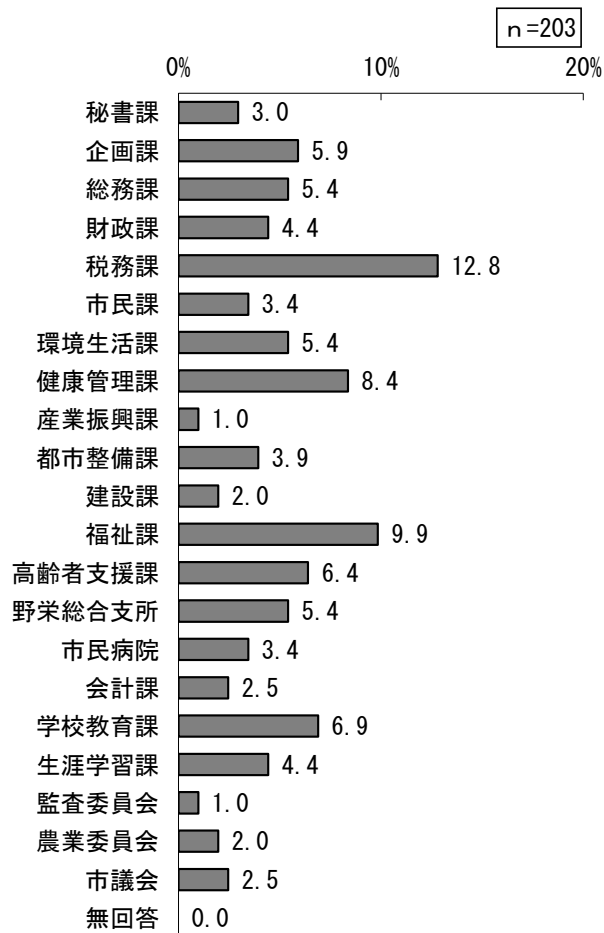
（2）年齢

○ 年齢は「40 歳代」32.0%が最も多く、次いで「50 歳代」25.1%、「10・20 歳代」23.6%と続く。



（３）所属部署

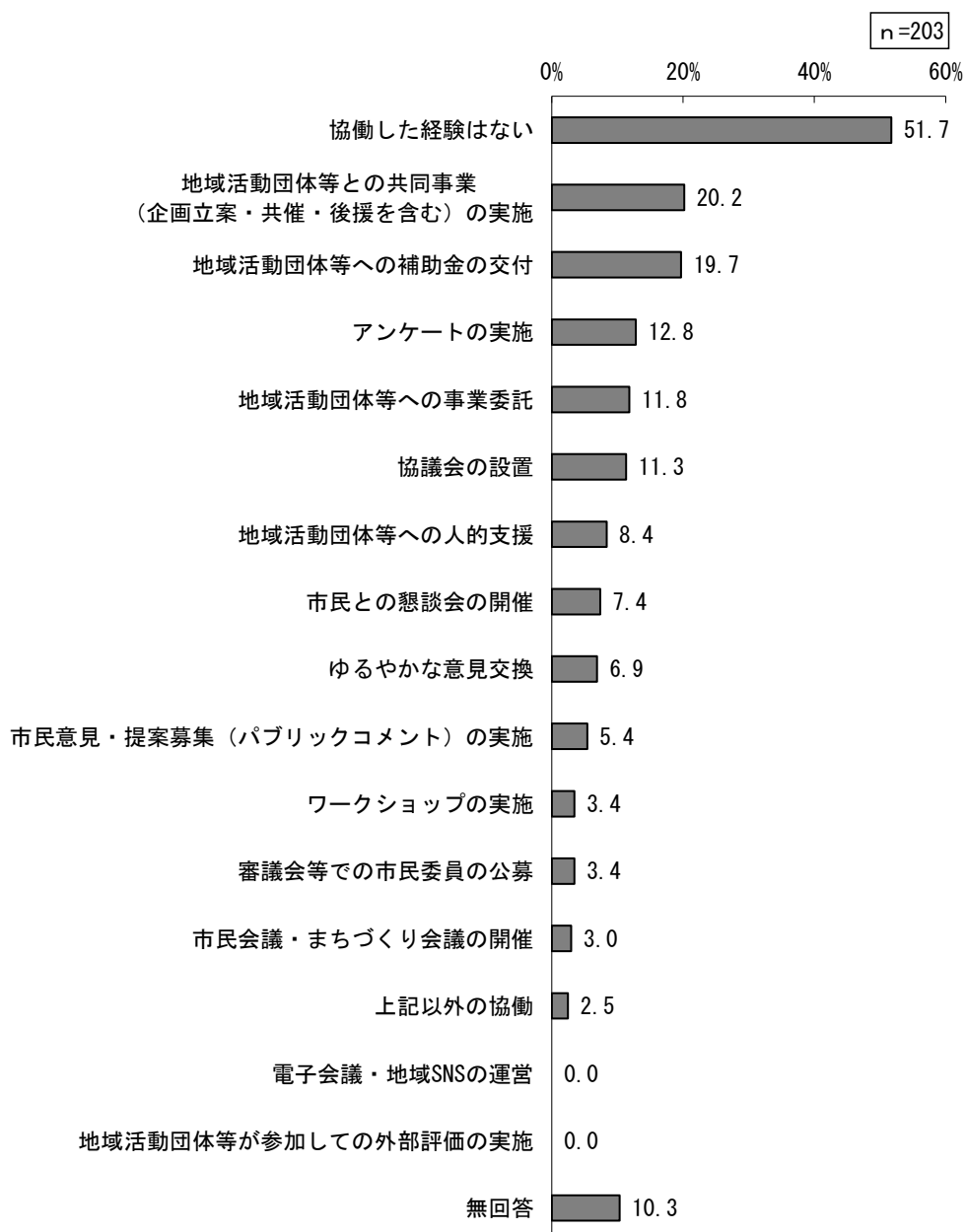
- 所属部署は「税務課」12.8%が最も多く、次いで「福祉課」9.9%、「健康管理課」8.4%と続く。



IV-2. 市民や地域活動団体等との協働について

問2 あなたは、これまで担当した業務の中で、市民や地域活動団体等との協働による事業実施の経験はありますか。（あてはまるものすべてに○をし、連携相手を選択してください。）

- 実施経験のある事業は、「地域活動団体等との共同事業」20.2%が最も多く、次いで「地域活動団体等への補助金の交付」19.7%、「アンケートの実施」12.8%と続く。
- 一方、「協働した経験はない」は51.7%と半数にのぼる。



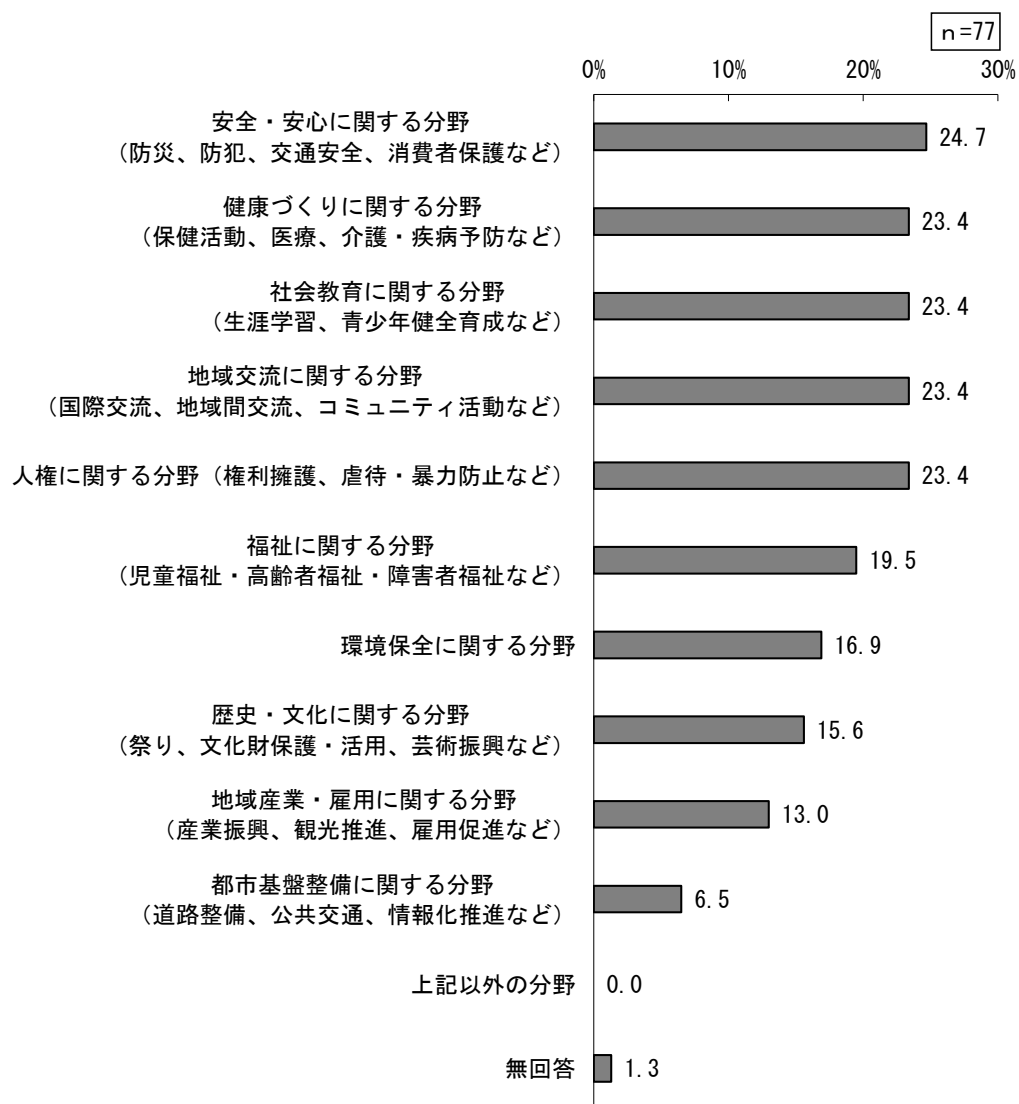
○ 連携相手の割合は以下の通り。

【連携相手】 ※無回答を除いた回答者を100%とした割合 上段：人数 下段：割合	合計	自治会	企業	市民活動団体	各種地域団体	学校	個人	その他	無回答
1 市民との懇談会の開催	19 100.0	8 42.1	2 10.5	9 47.4	14 73.7	3 15.8	7 36.8	0 0.0	184
2 アンケートの実施	28 100.0	2 7.1	3 10.7	2 7.1	6 21.4	5 17.9	21 75.0	2 7.1	175
3 市民意見・提案募集（パブリックコメント）の実施	14 100.0	2 14.3	1 7.1	2 14.3	2 14.3	1 7.1	13 92.9	1 7.1	189
4 ゆるやかな意見交換	14 100.0	5 35.7	3 21.4	6 42.9	4 28.6	2 14.3	6 42.9	0 0.0	189
5 ワークショップの実施	8 100.0	1 12.5	0 0.0	3 37.5	3 37.5	1 12.5	5 62.5	0 0.0	195
6 協議会の設置	24 100.0	7 29.2	3 12.5	10 41.7	16 66.7	9 37.5	9 37.5	1 4.2	179
7 審議会等での市民委員の公募	7 100.0	3 42.9	2 28.6	2 28.6	4 57.1	2 28.6	6 85.7	0 0.0	196
8 市民会議・まちづくり会議の開催	6 100.0	4 66.7	0 0.0	3 50.0	5 83.3	2 33.3	5 83.3	2 33.3	197
9 電子会議・地域 SNS の運営	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	203
10 地域活動団体等への補助金の交付	41 100.0	11 26.8	1 2.4	16 39.0	26 63.4	3 7.3	5 12.2	0 0.0	162
11 地域活動団体等への事業委託	25 100.0	5 20.0	3 12.0	10 40.0	17 68.0	0 0.0	2 8.0	0 0.0	178
12 地域活動団体等との共同事業（企画立案・共催・後援を含む）の実施	38 100.0	5 13.2	1 2.6	13 34.2	29 76.3	5 13.2	4 10.5	1 2.6	165
13 地域活動団体等への人的支援	15 100.0	1 6.7	0 0.0	6 40.0	9 60.0	2 13.3	0 0.0	1 6.7	188
14 地域活動団体等が参加しての外部評価の実施	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	203
15 上記以外の協働	4 100.0	1 25.0	0 0.0	1 25.0	2 50.0	1 25.0	2 50.0	1 25.0	199

問3 これまで担当した業務の中で、市民や地域活動団体等とどのような分野で協働しましたか。（あてはまるものすべてに○をし、連携相手を選択してください。）

- 市民や地域活動団体等と協働した分野は、「安全・安心に関する分野」24.7%が最も多く、次いで「健康づくりに関する分野」「地域交流に関する分野」ともに23.4%と続く。

※問2で「協働した経験はない」以外を選択した方に限定



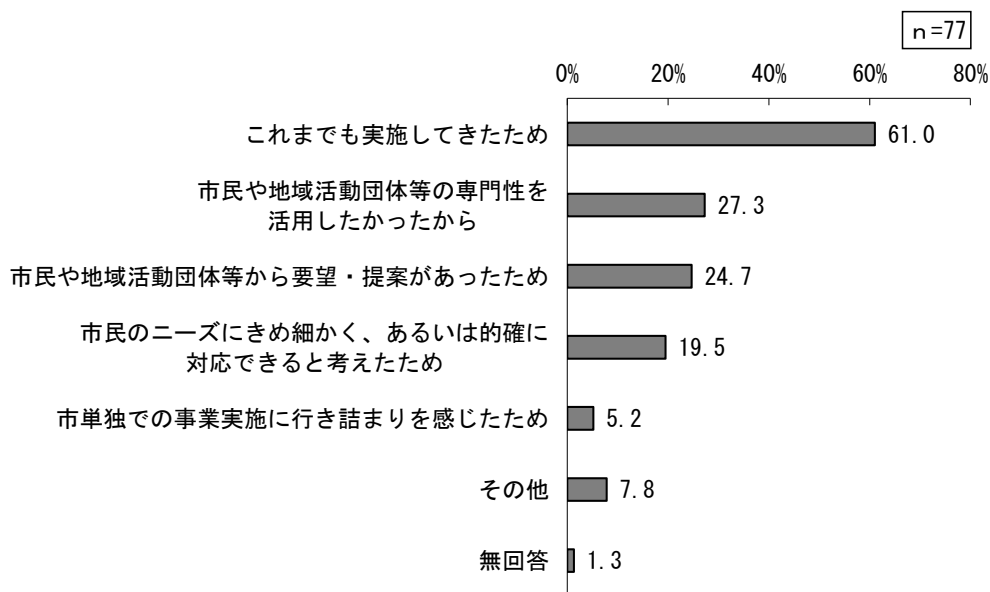
○ 連携相手の割合は以下の通り。

【連携相手】 ※無回答を除いた回答者を100%とした割合 上段：人数 下段：割合	合計	自治会	企業	市民活動団体	各種地域団体	学校	個人	その他	無回答
1 福祉に関する分野（児童福祉・高齢者福祉・障害者福祉など）	17 100.0	3 17.6	2 11.8	9 52.9	11 64.7	5 29.4	6 35.3	0 0.0	186
2 健康づくりに関する分野（保健活動、医療、介護・疾病予防など）	17 100.0	0 0.0	0 0.0	7 41.2	12 70.6	3 17.6	3 17.6	1 5.9	186
3 社会教育に関する分野（生涯学習、青少年健全育成など）	17 100.0	0 0.0	0 0.0	9 52.9	13 76.5	7 41.2	4 23.5	3 17.6	186
4 歴史・文化に関する分野（祭り、文化財保護・活用、芸術振興など）	9 100.0	1 11.1	1 11.1	6 66.7	7 77.8	2 22.2	2 22.2	0 0.0	194
5 環境保全に関する分野	13 100.0	4 30.8	3 23.1	6 46.2	8 61.5	3 23.1	5 38.5	0 0.0	190
6 都市基盤整備に関する分野（道路整備、公共交通、情報化推進など）	8 100.0	1 12.5	3 37.5	2 25.0	3 37.5	2 25.0	3 37.5	0 0.0	195
7 地域交流に関する分野（国際交流、地域間交流、コミュニティ活動など）	15 100.0	7 46.7	0 0.0	6 40.0	6 40.0	2 13.3	2 13.3	1 6.7	188
8 安全・安心に関する分野（防災、防犯、交通安全、消費者保護など）	18 100.0	7 38.9	0 0.0	7 38.9	11 61.1	6 33.3	3 16.7	5 27.8	185
9 人権に関する分野（権利擁護、虐待・暴力防止など）	4 100.0	0 0.0	0 0.0	1 25.0	2 50.0	1 25.0	0 0.0	2 50.0	199
10 地域産業・雇用に関する分野（産業振興、観光推進、雇用促進など）	21 100.0	4 19.0	2 9.5	13 61.9	16 76.2	4 19.0	7 33.3	2 9.5	182
11 上記以外の分野	8 100.0	3 37.5	1 12.5	5 62.5	6 75.0	4 50.0	5 62.5	1 12.5	195

問4 これまで担当した業務の中で、市民や地域活動団体等と協働した理由（きっかけ）は何ですか。（主なもの2つまでに○）

- 市民や地域活動団体等と協働した理由は、「これまでも実施してきたため」25.6%が最も多く、次いで「市民や地域活動団体等の専門性を活用したかったから」11.3%、「市民や地域活動団体等から要望・提案があったため」9.9%と続く。

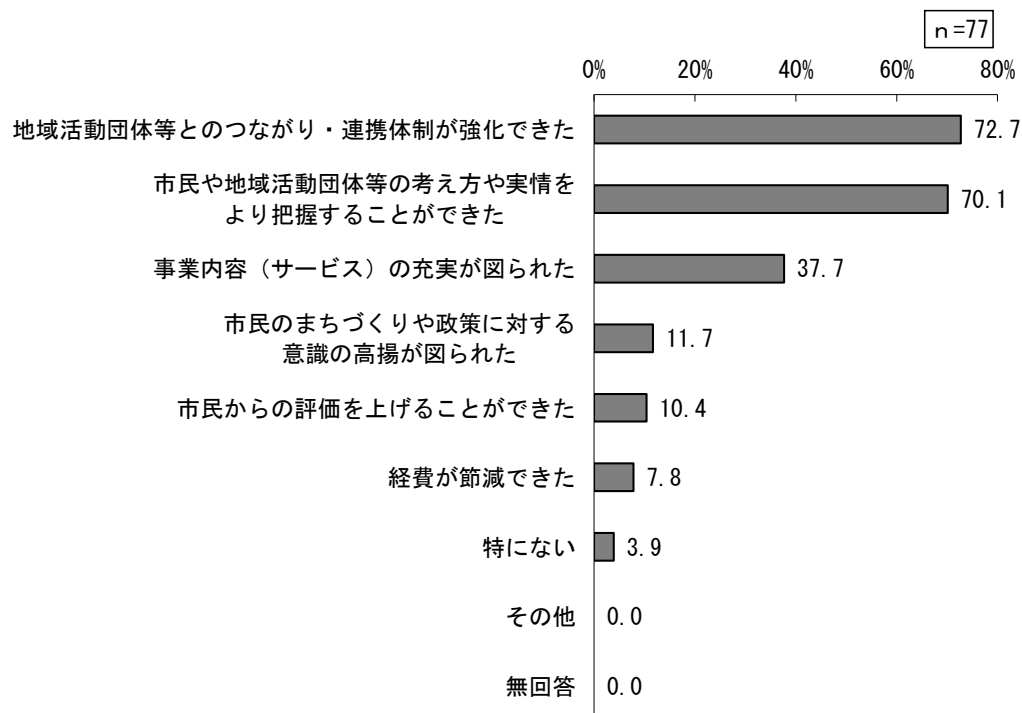
※問2で「協働した経験はない」以外を選択した方限定



問5 これまで担当した業務の中で、協働することにより、どのような成果を感じましたか。（あてはまるものすべてに○）

- 協働することにより感じた成果は、「地域活動団体等とのつながり・連携体制が強化できた」72.7%が最も多く、次いで「市民や地域活動団体等の考え方や実状をより把握することができた」70.1%、「事業内容（サービス）の充実が図られた」37.7%と続く。

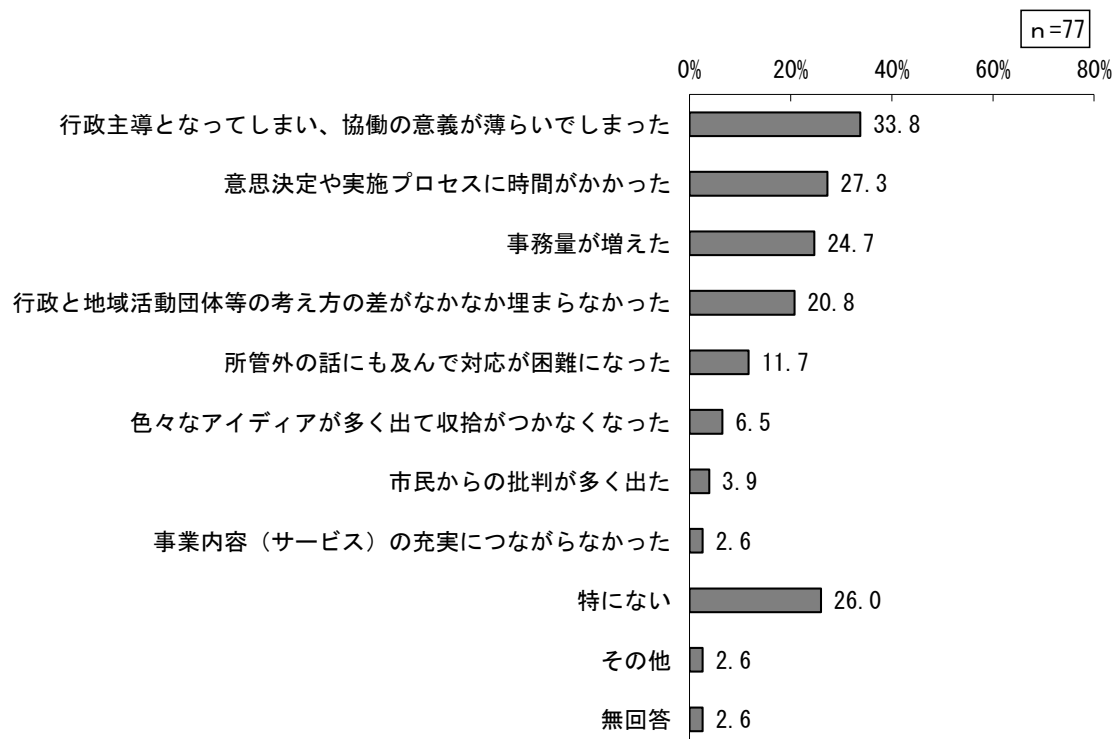
※問2で「協働した経験はない」以外を選択した方限定



問6 これまで担当した業務の中で、協働に対して、どのような課題や不満を感じましたか。（あてはまるものすべてに○）

- 協働に対して感じている課題や不満は、「行政主導となってしまう、協働の意義が薄らいでしまった」33.8%が最も多く、次いで「意思決定や実施プロセスに時間がかかった」27.3%、「事務量が増えた」24.7%と続く。

※問2で「協働した経験はない」以外を選択した方限定



問7 これまで担当した業務の中で、具体的な協働の事例を1つご紹介ください。

事業名	協働相手	協働内容	工夫	成果
コミュニティ活動補助事業	豊和地区地域振興協議会	地域住民相互の連携コミュニティの醸成のため、地域自治体と共に、地域コミュニティ事業を企画・実施した。	地域住民が誰でも気軽に参加できる行事計画となるよう留意し、さらに、事業計画（内容）決定過程において、地域住民から意見を集約した上で、行政主導でなく住民主体で決定していただくように努めた。	地域住民代表として、行事等に携わった方の意識啓発・高揚。
防犯対策事業	匝瑳市防犯協会	・市から防犯協会へ補助金の交付 ・防犯啓発活動（チラシ・グッズの配布等）の実施 ・市内各地における防犯パトロールの実施 ・防犯灯の点検、新規設置必要箇所の把握 ・活動服、防犯パトロール車の貸与 ・事務局員は市職員が担当	・防犯協会は市内に14の支部があり、基本的に各支部エリア内に住む防犯指導員がエリア内における防犯活動を実施。よって、各地域特性に応じたきめ細かな防犯活動が可能。	・地域に精通した指導員により、各地域特性に応じたパトロールができています。 ・防犯灯については、各地域の防犯指導員によるパトロールを通じて不具合箇所の報告がなされており、市としても速やかな対応ができる。
水田農業推進協議会	農協、区長、農業経営者など	水田農業の推進や補助金の活用	-	各団体や専門家から意見が聞けた
スポーツ少年団各大会	スポーツ少年団各団体	大会の開催にあたり各団の役員の方々と、大会の実施について話し合いの場を設け、意見調整をして大会の実施に役立てた。	各団の意見をできるだけ考慮して運営に努めた。	運営がスムーズに行えた。
保健体育団体育成事業	のさかスポーツクラブ	地域住民の親睦と交流、体力向上及び健康増進を推進する	おおむね一の中学校区に拠点を置き、当該地域の住民が主体となって地域スポーツ活動を実施する	200名超の市民等が会員となり、体力健康増進につながっている
飯高植林コンサート	飯高植林コンサート実行委員会	コンサートの企画・運営	実行委員会の意思決定を第一に、各方面と調整をした。	実行委員会の方たちは、自分たちのコンサートであるという意識を持って、活動されている。実行委員会のメンバーは飯高地区の地元の方が中心なので、コンサートへの理解・協力を

事業名	協働相手	協働内容	工夫	成果
				得やすい。
地域ぐるみごみゼロ運動	市内自治会・各種団体・小中学校等	地域住民の協力のもと、市内の道路等の清掃を行う。	全戸回覧や防災無線等により、多くの市民に参加を呼び掛けた。	毎年多くの市民に参加していただいている。
環境美化推進事業	西小笹の方	水路の清掃	こちらができることと、むこうができることの折り合いをつける	最終的には納得する形で清掃を終了することができた
ようかいちば農業まつり	農業振興会構成団体	実行委員会を組織、主幹産業である農業のPRイベントを開催	各団体からオリジナルな企画を出してもらうこと	イベントに取り組む中で団体の活性化が図られ、市内農産物のPRができた。
コミュニティ育成事業補助金	地域団体	集会所等の改修等に対する補助金の交付	-	地域団体の活動施設の維持や充実が図られた
地域福祉計画策定事業	地域で活動している住民	地域福祉計画座談会の開催（ワークショップ形式）	参加者主体で座談会を進行した。	住民視点での地域の課題を多く得ることができた。
食生活改善事業	匝瑳市保健推進員会	健康管理課事業への協力 各地区での健康づくりの推進	保健推進員の養成教室の時に、推進員の活動目的や内容を説明するほか、現役推進員を交えたグループワークを実施し、実際の活動のイメージをつかんでもらうようにした。	グループワークを実施したことで、活動に対する不安は改善されている。
有害鳥獣駆除事業	匝瑳市猟友会	猟友会へ有害鳥獣駆除の協力を求め、農作物被害防止のため、市職員、農協職員、猟友会員で、有害鳥獣の一斉駆除を実施した。	協力者が駆除業務講習へ参加する際、市でバスを用意し、協力者の負担軽減を図った。	年々、協力者が減少していったが、各自で行っていた講習の交通手段の確保がされたことにより、協力希望者が参加しやすくなり、猟友会内で声を掛けてくれたこともあり、人員の確保ができた。
がん対策推進事業	保健推進員会	がん対策推進事業において、新規のがん検診登録者を増やすために商業施設において勧奨を行った	がん検診ののぼり旗を設置 わかりやすい資料の作成	登録者が増えた
食生活改善推進事業	保健推進員会	健康管理課事業の食育教室及び健康づくり教室を協働で行った。 また、農業まつりでもブースを設け、試食の配付や健康づくりの啓発及び普及を図った	普段からの信頼関係の保持	行事には多くの人手が必要となるが、栄養教室や推進員としての研修を受けた人の協力が得られる。

事業名	協働相手	協働内容	工夫	成果
		た。		
がん対策推進事業	匝瑳市保健推進員	市民のがん検診受診率向上に向けた取り組み ・商業店で啓蒙、パンフレットの配布、受診申し込み受付 ・農業まつりでの推進員コーナーにて、大腸がん検診の掲示や受診申し込み受付	・商業店内で啓蒙活動がわかるように、のぼり旗を設置し住民にわかりやすくした。 ・実施日前に勉強会を開催し、がん検診や受診の仕方などを説明した。 ・実施後はどうであったかを確認した。	・がん検診申込者が増えた。
がん対策推進事業	匝瑳市保健推進員	がん検診受診勧奨のための、ＰＲ活動。市内商業施設において、受診勧奨を行った。	事前に、がんの知識や検診内容についての勉強会を実施した。	がん検診申込者が増えた。
介護度重度化防止	はつらつ支援隊（市が個人推薦し、県が育成。名称は、相談の上決定。）	地区の高齢者の集まり等へ出張し、介護予防に関する知識の提供、運動指導を行うもの。団体から市へ依頼があれば、はつらつ支援隊に活動を依頼し実施。	団体を活用してもらえようＰＲを行った。 依頼が偏らないよう人選に注意をした。	団体に依頼することで職員に時間がとれ、他の業務を行うことができた。 ボランティア同士の仲間作りに役立った。
思春期保健事業	市内中学校、小学校、養護教諭部会	思春期における問題の把握と、思春期保健講演会の実施	各学校による思春期教育の進行状況、問題点、理解度、学校側の希望を把握し、講演会内容にいかす	思春期における問題の把握、性感染症と若年妊娠の予防、自殺予防
緊急通学路合同点検	学校教育課、小学校、ＰＴＡ、県土木事務所、警察	市内、各小学校通学路の危険箇所をリストアップし対策を検討・実施する。	通常の単に道路を作る観点（車両優先）でなく、児童の安全を確保する目的で整備した事。	児童の通学路の安全が図られた。
地域情報通信基盤整備事業	東日本電信電話(株)千葉支店	公設民営方式により整備した光ブロードバンド施設によるインターネット利用者の加入促進を図るため、市内各地で市民に対する説明会等を開催した。	・参加しやすい曜日、時間、場所の設定	・想定を超える加入率であった。
新生匝瑳戦略会議	学識経験者、市内地域団体の代表者、一般公募に応募した市民	既成概念や行政の枠にとらわれない斬新な発想や民間的な感覚による意見を聴取し、「魅力と活力があり、市民が心から住み	会議の委員だけでは欲しい情報が十分に得られないとき、又は戦略会議から地域へのきっかけづくりを仕掛けたいときには、	市民だけでなく外部の有識者を委員の構成メンバーに入れたことで、専門家の視点から様々なアドバイスを頂くことができ

事業名	協働相手	協働内容	工夫	成果
		よいと実感できるふるさと匠瑳市」を創造する施策に反映させるため、新生匠瑳戦略会議を設置し、同会議でとりまとめた「匠瑳市再生への提案書（持続可能な地域社会創造のための地域づくりを目指して）」を市長へ提出した。	実際に事業に携わっている事業者や関わりの深い地元住民等を交えたフォーラム等を開催し、地域と向き合いながら提案の方向性を検討した。	た。
のさかいきいき農業塾	のさかいきいき農業塾生	特産品開発や地域活性化について議論し、団体が中心となって実施した。	個々の意見を議論しどうしたら地域がよくなるのかみんなで議論した。	チューリップ祭りの実施、農業者の研修会等による意識改革、農業者の交流
ふれあいパーク整備事業	行政機関、各種農業団体、関係自治会、法人代表者、ボランティアなど	計画づくり（ハードおよびソフト）への参画 運営組織づくり 交流事業の事業化 ボランティア育成	情報共有 高齢者・女性の活用 関連事業の多角化（市民農園、炭焼き窯、散歩コースの設定など）	展示コーナーでの生産者展示のコントロール 女性などの働く場所の確保 新規就農者への農業指導事業 など
チューリップ祭りの開催	農業者団体	農業者団体と共同し、イベントの開催を行い、併せてイベント時に農産物等販売を行い、地域間成果を図った。	団体と市役所が得意とする部分を主たる責任区分として事業計画、運営を実施した。	例年の行事として定着が図られ、物販に向けての農業者団体の活性化が図られた。
匠瑳の浜魅力ブラッシュアップ事業策定業務	サーファー、吉崎地区住民、商工関係者	海岸保全、観光振興等を目的としたイベントの実施、施設整備	他職種の人たちを融合させるため、目的を絞った。	1173DAYのイベントを実施。協働者の意見を十分聞いて、吉崎浜に観光トイレを整備した。
新川清掃活動	吉崎揚水組合	毎年11月の第一日曜日に組合員とともに河川清掃を実施	-	河川敷の美観向上
市観光資源の日本ナショナルトラスト調査	飯高地区住民有志	日本ナショナルトラストの指導のもと地域住民有志と飯高寺を中心に評価できる自然・文化遺産（負の遺産でもいい）をフィールドワークした。	特になし	この調査がきっかけで、現在実施しているオープンガーデン（安久山）へと発展した。
総合型地域スポーツクラブ	のさかスポーツクラブ	地域に根ざしたスポーツの振興	-	市民の健康・体力づくりに努め、健康で明るく豊かな市民生活を送れるよう貢献した。

事業名	協働相手	協働内容	工夫	成果
環境基本計画策定（市民ワークショップの開催）	市民（公募）	匠瑤市環境基本計画を策定するに当たり、市民ワークショップを設置し、市の環境についての現状や課題、望ましい環境像の実現に向けた施策等について議論・検討し計画に反映させる。	特になし	環境基本計画へ市民の意見等が反映された
社会教育団体育成事業	子ども会	各地区子ども会への補助及び講習会・ドッジボール大会等の事業の実施	事業への理解と参加を促すため、内容が分かりやすいチラシ等を作成し、周知に努めた。また、仕事との両立で忙しい役員が多いため、取りまとめ等の事務を見直した。	チラシを用いたことで、事業の内容を広く周知することができ、多くの児童・保護者が参加した。
匠瑤市民体育大会	匠瑤市体育協会	市内の各競技団体と競技運営方法などについて協議のうえ全体の大会運営を行った。	多くの市民が参加できる調整や運営上で事故等を起こさない体制づくりに努めた。	多くの市民が各競技大会に参加できた。大きな事故がなく大会運営が行われた。
成人式	当該年度新成人及び前年度新成人	実行委員会の委員を依頼して式典等を協働して運営した	土日など休日に打ち合わせ会議を開いた	成人式の運営に新成人自身が携わることにより式典でのマナー向上に貢献
匠瑤市非常勤講師配置事業	各学校	市非常勤講師を学校に配置し、きめ細かな学習支援を行う。	学校のニーズに応じ、適切な人的配置に努めた。	子どもたち個々への適切な支援を行うことができ、学習効率の向上が見られた。また、きめ細かな支援をすることができた。
中学生社会体験事業	事業所、学校、公共機関、商工会、保護者	中学生の職場体験事業	それぞれの希望する職業が体験できるように協力事業所を増やす。	中学生も満足し、事業所もやりがいが見られた。
里山づくり活動支援事業	アルカディアの会	森林の保全活動を実施する里山活動団体に対して補助金を交付	特になし	環境活動・美化活動の拠点となり、農業に関心を持ってもらう機会となった。
飯高檀森コンサート	飯高檀森コンサート実行委員会	飯高檀森コンサートの出演者を少ない予算の中で、日本最古で、最高の学問所であった、飯高檀森の飯高寺境内の中で演奏してくれる素晴らしい	出演者については、飯高檀森コンサート実行委員会の会長を始め、役員の知り合いで、出演してくれそうな方を探してもらったり、インター	飯高檀森コンサートの役員の紹介などで、少ない予算の中で交渉を行い、出演してもらうことができた。

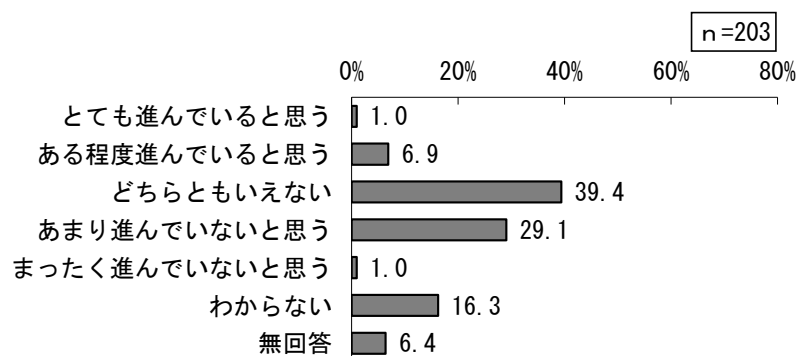
事業名	協働相手	協働内容	工夫	成果
		い演奏者を選択する協議を行う。また、市内を始め、近隣の市町及び県外の人々に、どのように周知して来てもらうか、どのようなパンフレットを作成し、どこに送るか、また、どのような案内看板を作成し、どこに設置するかなど協議を行う。	ネットで、出演者を探した。また、昨年と同じ出演者でない方の選考を行う。	
母子寡婦福祉会補助金助成事業	母子寡婦福祉会	補助金の交付、母子寡婦福祉会大会出席、市議会への陳情	その他の事業に追われて、特段、覚えていません	同左
各種まつり	実行委員会	企画立案 ～ 開催	役割分担の明確	なし
婚活事業	NPO法人 S O S A - P r o j e c t	農業を通じた婚活を行い、市内農業者の後継者育成に資する	「農業」「田舎暮らし」に興味のある女性を選定した	特に成果があったという報告はない
特定健康診査（個別健診）	匠瑳医師会	特定健康診査を従来の集団方式から、医療機関でも受けられるように個別方式を導入し、集団・個別方式の併用を図った。	健診結果の精度管理及び、国保連合会へ送るデータ作成の難易度が高い点から、検査会社の統一を図った。	かかりつけ医を持つことにつながった。
1173(いいなみ)DAY 事業	共興地区(区長連絡員・地元商店)・観光協会・商工会・サーフショップ等	吉崎海岸の活性化(観光振興)	地元で特色ある商品を生産する商店及びサーファーの取り込み	地元の活性化への協力体制を構築
いきいきげんき倶楽部	市民活動団・地域団体	介護予防についての勉強や運動を実施 また、地域での高齢者の見守りについても説明	地域住民が主体的に介護予防や認知症の方を見守っていけるようにした	参加者が増えた
介護保険運営事業	介護保険事業者	介護保険サービスの充実に向けた課題抽出と対応策	意見交換や会議開催	現状把握ができて、目的の共有につながった。
成人式	成人式実行委員会	成人式の準備・運営	実行委員の意見を優先したこと	自分たちで成人式を運営するという意識が高まった
国際交流	匠瑳市国際交流協会	市民と近隣地域に居住する外国人との交流事業開催等	事業の実績や協会予算の状況を役員に説明し、現状を踏まえた事業実施をしてもらえるよう工夫した。	前例踏襲ではなく、新規事業の案が出るなど、活発な意見が出るようになった。
成人式	成人式実行委員	成人式の準備・運	実行委員の意見を	自分たちで成人式

事業名	協働相手	協働内容	工夫	成果
	会	営	優先したこと	を運営するという意識が高まった
新生匠瑳戦略会議	学識経験者、各種団体代表、市民	地域課題の解決に向けた検討	相手方が参加しやすい時間帯での会議開催 検討状況の詳細な公表	地域課題の相互認識 解決策の方向性の相互認識 行政運営に対する市民意識の啓発
交通安全対策事業	交通安全協会、安全運転管理者協議会	交通事故防止に係る各種キャンペーンの実施等	-	-
グラウンド整備事業	グラウンドゴルフ協会等	芝張り	芝張りの役割分担	公共施設の管理意識の向上
農地・水・環境保全向上対策事業	自治会・シニアクラブ・婦人会・小学校・PTA・JA等・国・県・市	地域にて協議会を設立し、参加者の共同作業にて農村環境の整備をした。	参加者により、年間の作業スケジュールを立て、各参加団体の役割を立て、共同での活動をした。	行政主導ではなく、地域にて活動をしたことにより、農村環境整備につながった。

IV-3. 市の協働に対する考え方について

問8 匝瑳市は、協働が進んでいるまちだと思いますか。（1つに○）

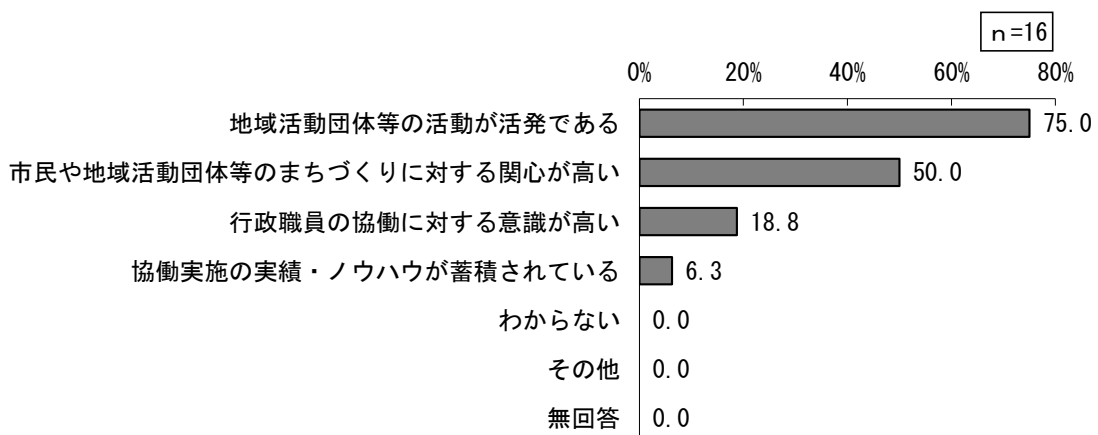
- 匝瑳市は、協働が進んでいるまちだと思うかは、「どちらともいえない」39.4%が最も多く、次いで「あまり進んでいないと思う」29.1%、「わからない」16.3%と続く。



問9 匝瑳市は、なぜ協働が進んでいると思いますか。（主なもの2つまでに○）

- 匝瑳市は、なぜ協働が進んでいると思うかは、「地域活動団体等の活動が活発である」75.0%が最も多く、次いで「市民や地域活動団体等のまちづくりに対する関心が高い」50.0%、「行政職員の協働に対する意識が高い」18.8%と続く。

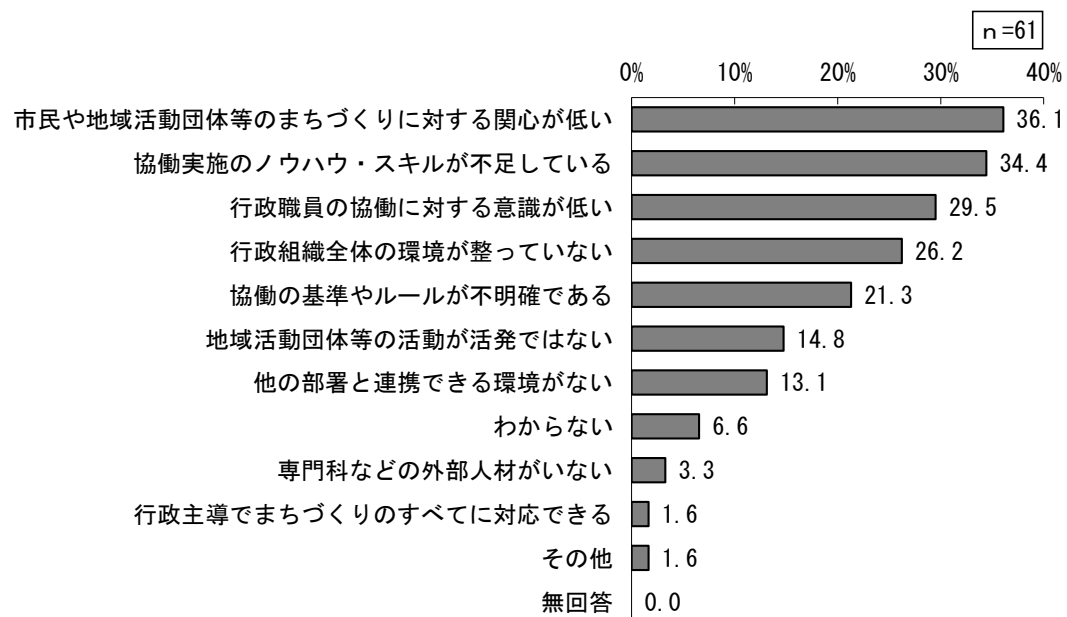
※問8で「1、2（進んでいる）」を選択した方限定



問10 匝瑳市は、なぜ協働が進んでいないと思いますか。（主なもの2つまでに○）

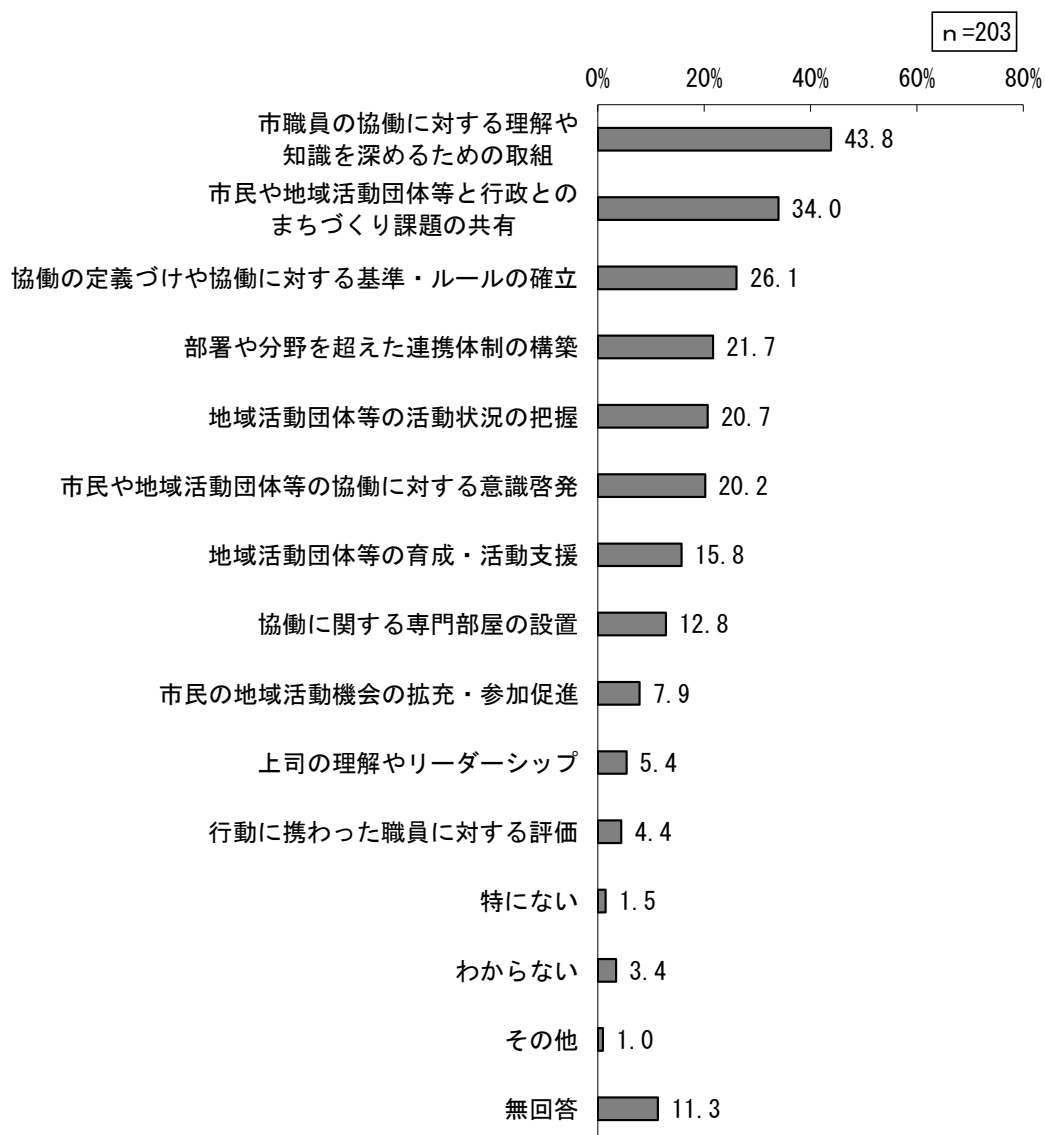
- 匝瑳市は、なぜ協働が進んでいないと思うかは、「市民や地域団体等のまちづくりに対する関心が低い」36.1%が最も多く、次いで「協働実施のノウハウ・スキルが不足している」34.4%、「行政職員の協働に対する意識が低い」29.5%と続く。

※問8で「4、5（進んでいない）」を選択した方限定



問11 今後、匝瑳市において、より協働を進めていくためには、どのような取組が必要だと思いますか。（主なもの3つまでに○）

- 今後、匝瑳市がより協働を進めていくために必要だと思う取り組みは、「市職員の協働に対する理解や知識を深めるための取組」43.8%が最も多く、次いで「市民や地域活動団体等と行政とのまちづくり課題の共有」34.0%、「協働の定義づけや協働に対する基準・ルールの確立」26.1%と続く。



問12 最後に、市民協働の推進に向けたご意見・ご提案があればご記入ください。

市民協働の推進に向けたご意見・ご提案
行政主導での協働で、住民目線(住民要望)からの協働が少ないと思われる。 各地区で自治会・グループ単位で、地区にあった活動を行っていると思われるが、市内でどのような活動が行われているか自分自身がわかっていない。また、地区活動(自主的)には、行政はあまり関知してこなかったと感じる。まずは、各地区の活動把握が必要。
匝瑳市は都市部と比較して、リタイアした世帯、また兼業農家の世帯も多く、ご本人が市民活動をしてみたいという希望があっても、「休日=自分の自由に市民活動ができる時間」という市民は限られてくると思います。 また、働く世代は、現代の勤務条件の厳しさにより夜遅くまで平日も勤務されていたり、市外に勤務されている方も多く、市民活動団体を含めた平日夜の会議などを開催しても仕事の為欠席という方が多くみられます。 都市部にならって市民協働の推進をしようと思っても、市民の生活サイクルや生活時間などが違うため、匝瑳市民の生活スタイルや生活時間をふまえたうえで、市民活動の推進を行わないと、高齢少子化の中で貴重な、地元のある程度市民活動や地域活動を行うことが出来る若い方への集中的な負担となり(役をたくさん兼ねているなど)、さらなる市外への若い世代の流出につながってしまう恐れがあると思います。
協働の対象となる事業や項目について具体的な内容がイメージしにくい。先進事例も取り組みの報告がされているが、協働により何の成果があったのか、協働によるメリットが分かりにくい。 学習不足は否めませんので、全職員対象に十分な研修をお願いしたい。
特になし
市民協働を進めるためには、市民の盛り上がりが必要であると思います。
職員に余裕がないとやりたくてもできない。地域の人材を吸い上げることのできる職員の力が必要と考えます。
現市民または交流者(転入者)をターゲットとするかで、末端の事業は展開が異なると思いますが、根底にあるのは、市行政の各施策に対する取り組みのプロセス設定だと思います。 財政力が弱い中で、各種事業の市民満足度を高めるには、計画及び事業運営への市民参画だと思います。
市民協働とは何か職員の知識不足となっており、市民協働が進まない。 研修などにより意識改革を進める必要がある。
専門部署を設置し、市職員の協働に対する理解や知識を深めさせるとともに、市民や地域活動団体等の協働に対する意識啓発を行う。
市民との協働の前提として、庁内における情報共有や連携のあり方がより重要であると思います。 情報の保護など、行政として慎重にならねばならない部分も多いと思いますが、単独の部署だけでは解決が困難な課題に対応するためには、各部署が有する情報の相互利活用とそのためのルール作りが必要になると思います。 また、情報だけでなく、例えば所属部の枠を超えて一つの事業に取り組む(行政同士の協働)な

市民協働の推進に向けたご意見・ご提案
ど、職場・職員同士の現場レベルでの連携が求められます。マンパワー不足の解消や多様なアイデアの醸成には、多種多様な人材の相互刺激が必要です。 以上より、庁内の人的・物的・情報資源の積極的な相互利活用に向けたルール作りが重要だと考えます。
市民協働の推進に向けた、職員の意識の高揚を図るとともに、市民や地域活動団体が気軽に相談できる部署や分野の設置並びに連携体制の構築を図る。
昨今のトレンドのように市民協働が謳われているが、自己中心的や個性的な人が増えつつある現代社会において、行政側から一方的に協働を呼びかけてもそれは押し付けになるだけで一部の市民だけがしぶしぶ参加しているにすぎない。現状では行政が先導しているだけの形だけの市民協働がほとんどであり、市民からみて意見が反映されやりがいいがある・楽しい、など自発的に参加したくなるようなものでないと真の協働参画になりえないだろう。 市が立ち上げた団体、協議会及び審議会並びにパブリックコメント、アンケート等で有意に機能していると実感したことがない。それは市民が市行政に対して距離を感じているからであり、また期待を持っていないからである。改善するためには市民の意見を実現できる体制を整えなければならない。 例年同じことをやればよいと思っている職員の意識改革が求められるし、活力ある団体、グループには積極的に金銭面を含めた支援をしていく姿勢を見せる必要があるだろう。地域振興協議会を例にとると、活動が盛んな地区もあればそうではない地区もあるが内容に関わらず補助金は一緒である。それも年々減額するようなことが行われてきた。そのようなやり方では活動は停滞するばかりである。しぶしぶやっている地区は補助を打ち切り、活動を増やしたい地区には増額すべきなのである。すると地区同士の張り合いとなり次々と新しいアイデアが出て地域の活力が上がるに違いない。だが、このような単純なことですら行政になるとしがらみで、できないのである。現状のままでは市民協働の推進は市民の負担を増やすだけで何も生み出さないであろう。 以上、私なりに市民協働という意味を考えて書きましたが、市民協働の定義があいまい過ぎて求められているものとずれているかもしれません。その際はご容赦ください。
特になし
市民協働を掲げるうえで大前提となってくるのは、職員・市民双方の意識改革。双方が仕事を押し付けあう方便になってはいけないと思う。そのためには、双方が匝瑳市の抱える課題を共有し、自分自身の問題として捉え返すことが必要。
近年は、地域のつながりが希薄化していると言われているが、匝瑳市においては比較的郷土意識が高く、各集落内でのつながりや地元行事などが各地で行われている地域であり、知らず知らずのうちに従来から「協働」の形態がとられているのではないかと思われる。そういった点では初めから市民協働を確立させるというのではなく、現にある地域の特性を有効に市民協働指針に反映できればと思う。 一方で、市民協働の必要性の低い施策・事業を市民協働により実施しようとする、市民協働の形骸化になったり、よりよい施策・事業につながらない(逆に良いものが悪いものになってしまう場合もある)と思われるので、施策・事業ごとの市民協働の取捨選択が重要になると思う。
特になし。

市民協働の推進に向けたご意見・ご提案
目的をおたがいに明確にしたうえで、それぞれができる役割分担が決められる。
タテワリの行政組織となっているため、協働のヒントとなる各課の情報共有がなされていない。そのため、専門の部署の設置は必要と思われる。 市民や地域活動団体等と、行政とのまちづくり課題の共有できる場が必要。そのためには、よきファシリテーターが必要で、職員が行うのであればそのための教育が必須である。また、外部人材を活用するのも一案。 協働を、行政からの押し付けと捉える考えは根強い。行政、市民、各団体が協働について知り、学ぶことが必要。 協働に関心のある市民は少なからず存在する。活動を一步後押しする施策が必要。
市民協働を推進にあたっては、互いに意識を持った者が協同して進める必要があり、市としては、専門的は部署を設置し、市民の育成・活動支援が重要である。
協働という意味を本当に理解するには行政も市民や地域活動団体等も時間がかかると思う。
市民にとって、協働という言葉が深く浸透していないと感じている。少子高齢化による人口減少問題について市長へ要望が出された経緯もあることから問題意識がないわけでもないので、行政が道筋を示す必要があると思う。 また、一部の人だけ問題意識を持って行動を起こしても効果が薄れてしまうのでなるべく多くの住民にまちづくりの課題を共有し、一緒に取り組んでもらう必要がある。 部署や分野を超えた連携体制の確立及び調整する部署が必要であると感じるため、協働に関する専門部署の設置も必要と感じる。
協働という言葉は浸透していないが、同じ趣旨のことを考えている市民は多いと思う。 「高齢者の見守りをする事業を地域でできるようにしたい」「匠瑳市の魅力を伝える観光事業を考えている」等の意見を耳にすることがある。 それらの事業が実施に至らないのは、事業を提案する仕組み、事業を実施、運営するための資金的な裏付けがないからなのではないかと思う。 また、人手不足も課題である。これまで地域活動団体と行ってきた事業も、団体員の不足や高齢化を理由に活動が停滞している団体も見受けられる。実施する事業ごとに別々の地域活動団体を組織しているので、それぞれに団体員が必要になり、複数の役を掛け持ちしている人もいる。団体の活動内容も踏まえ、組織を統合する、もしくは、横断的な活動をする組織に作り替えることも必要になるのではないかと考える。
行政が主導による事業が主であるため、交付金・補助金の交付期間が過ぎた後にも地域にて共同（協同）活動が継続できる体制の整備が必要。